週刊 YEAR BOOK

1949
昭和24年

# 日録20世紀

8|19
平成9年8月19日発行
(毎週1回発行)第1巻第26号
¥560
講談社

## 湯川秀樹、ノーベル賞受賞!

下山・三鷹・松川「三大事件」連続発生の怪
"至宝"法隆寺金堂が炎上!
毛沢東、中華人民共和国成立を宣言

# ″湯川神社″″湯川饅頭″の話も出た熱狂ぶり
# 敗戦国日本に光を与えた大ニュース
# 「湯川秀樹博士、ノーベル賞受賞！」

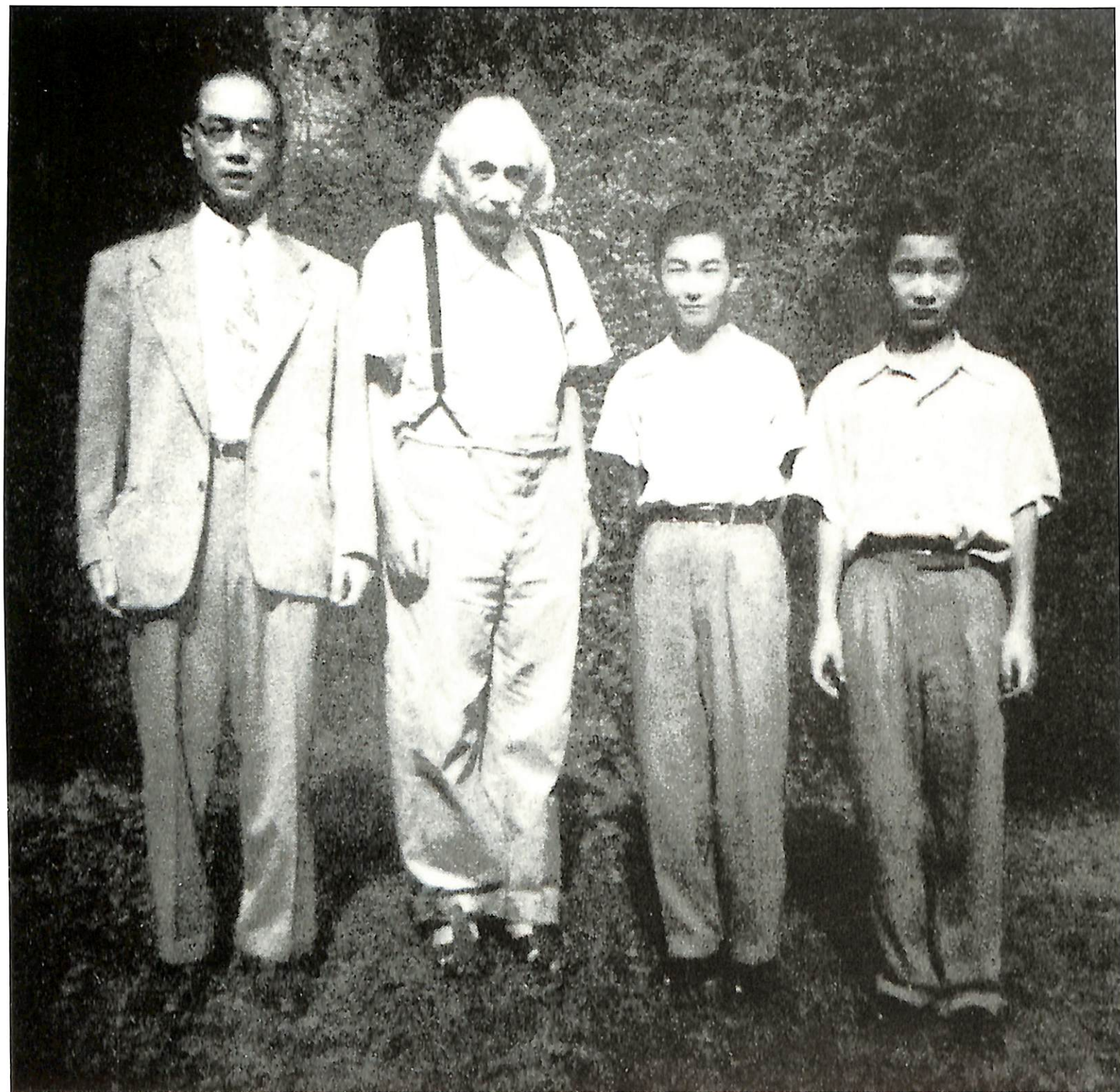
▲昭和24年12月10日、スウェーデンの首都ストックホルムで行われた授賞式で、アドルフ皇太子からノーベル賞を授与される湯川博士。

KUNGLIGA SVENSKA VETENSKAPSAKADEMIEN

ALFRED NOBEL

HIDEKI YUKAWA

◀湯川博士に授与された賞状。二つ折りで、右側に授賞理由と受賞者名が記されている。メダルとともに手渡された。 湯川春洋提供

◎表紙　ノーベル賞受賞後、一時帰国中の湯川博士。昭和25年8月30日、東京・紀尾井町の料亭「福田屋」にて。 土門拳



▲昭和24年5月、米プリンストン研究所で、アインシュタイン博士、長男・春洋（右端）、次男・高秋と。湯川は23年から同研究所の客員教授をつとめていた。 湯川スミ　湯川春洋提供

昭和二四年、敗戦の痛手が残る日本に、遠く北欧から明るいニュースが飛びこんだ。湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞である。博士の「中間子理論」は、物理学上の画期的功績であり、敗戦で打ちひしがれた日本国民に、はかりしれない自信と希望を与えたのである。

## 「学問の英雄」登場に日本国中が熱狂した

「大変光栄だ。この受賞により、敗戦後とかく意気のあがらなかった日本の科学者、また一般の人たちが多少とも元気づき、日本の再興に努力されるという結果になれば、これほどうれしいことはない」

昭和二四年一一月三日、ノーベル賞受賞の知らせを受けた湯川秀樹京都大学教授（四二）の第一声である。湯川はこの時、プリンストン研究所を経てコロンビア大学の教授をつとめており、翌月一〇日に行われたストックホルムの授賞式にも、アメリカから向かった。

一方、ノーベル賞決定以来、日本の新聞は連日、湯川の関連記事で埋めつくされた。授賞式の模様や、中間子理論の解説に始まり、「兄弟そろって学者」「衆議院本会議、湯川博士に感謝決議」「ノーベル賞とは何か」、はては「ノーベル賞の賞金に税金はかかるのか」といった見出しの記事が続いた。マスコミや庶民ばかりではない。

賞を得し　湯川博士の　いさおしは
わが日の本の　ほこりとぞ思う

昭和天皇（四八）の御製である。「いさおし」とは「立派な手柄」という意味

"湯川神社""湯川饅頭"の話も出た熱狂ぶり

## 敗戦国日本に光を与えた大ニュース「湯川秀樹博士、ノーベル賞受賞!」

だが、敗戦で自信を喪失していた日本人は、この「いさおし」を自分のことのように喜んだ。湯川は日本人にとって、まさに"学問の英雄"となった。

当時の日本では、ノーベル賞自体、あまりなじみがなかった。ところが、湯川の受賞によって、日常生活のちょっとした手柄を「ノーベル賞」と囃したてるなど、「ノーベル賞」は「すごい」という言葉と同義に使われるほど身近になったのである。

「実現はしませんでしたけれど、湯川神社とか、湯川饅頭とか、そんな話が出るくらいの熱狂ぶりでした」と振り返るのは当時二八歳だった湯川の甥で、やはり物理学者の小川岩雄立教大学名誉教授だ。

翌二五年、湯川が一時帰国した時の歓迎もすさまじく、これによって物理を志す高校生がふえ、物理学科の入試競争率が高くなったほどである。

### 核兵器廃絶を訴え平和運動にも活躍

湯川がノーベル賞を受賞した「中間子理論」とはどういうものか?

どんな物質でも細かくしていくと分子、そして原子になる。原子は中心の原子核と、そのまわりをまわる電子からなり、さらに原子核はプラスの電荷を持つ陽子と、電気的に中性な中性子からなっている。

ところが、プラスの電荷を持った陽子同士が近づくと、排斥力が働き、反発する。複数の陽子や中性子が原子核としてどう結びついているのか、当時はまだ謎であった。

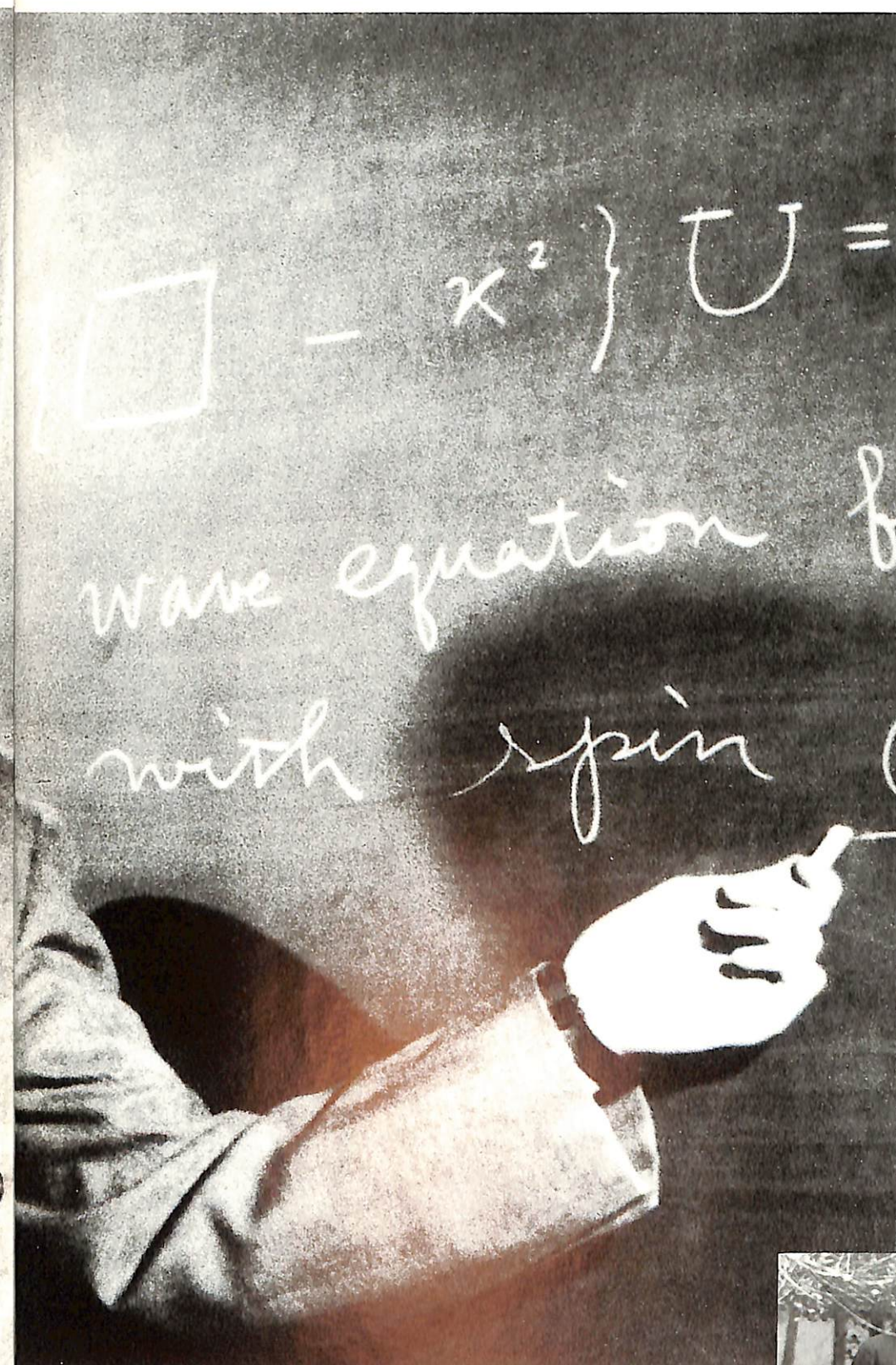
湯川はこの力を、それまでに知られている重力や電磁力ではなく、中間子という未知の粒子を、陽子などが交換しあう時に働く力だと推論した。昭和九年のことである。後年、湯川は「人間も手紙や贈り物をやりとりすると親しくなるでしょう。陽子や中性子も同じです」と、理論を説明している。

当初は世界的科学者であるデンマークのニールス・ボーアをはじめ、湯川説に否定的な学者が多かった。しかし昭和一二年、湯川説を裏づける粒子が宇宙線から発見され、俄然、湯川理論が注目されるようになる。後に、この粒子は湯川の予想した粒子とは無関係だとわかるが、昭和二二年、イギリスのパウエルらが湯川の予言した中間子を発見し、湯川理論は完全に裏づけられた。この中間子は現在、「パイ中間子」と呼ばれている。

「日本人ががっくりと肩を落としている時代に、それまで、ほぼ欧米人に占められていたノーベル賞を受賞。日本政府はしきりに"文化国家日本"を標榜していた時代で、タイミングは実によかった。また、叔父の受賞には、原爆の父オッペンハイマー(四五)の強力な推薦があったようです。アインシュタイン(七〇)も、叔父の手を取って日本への原爆投下を謝罪したそうです。あるいは、受賞には、原爆の被害をこうむった日本への、世界の科学者たちのお詫びとエールの意味もあったのかも知れません」(小川氏)

原爆投下以来、多くの物理学者たちは核兵器製造に対する贖罪意識を感じていた。こういった科学者たちの影響と、生来の気性もあって、湯川は核廃絶運動に積極的にかかわる。核の危険を訴えた、昭和三〇年のラッセル=アインシュタイン宣言への署名。そして、この宣言を機会に生まれたパグウォッシュ会議(科学と世界問題に関する会議)でも中心人物として活躍する。

昭和五六年、湯川はこの世を去るが、平成七年、パグウォッシュ会議にノーベル平和賞が贈られた。それは、湯川にとっては、二度目のノーベル賞受賞とも言えるものであった。

▲昭和24年、米コロンビア大学で講義を行う湯川博士。この年9月から帰国する28年まで、同大学教授をつとめた。授賞決定の知らせも、コロンビア大学内で受けた。 京都大学基礎物理学研究所提供

◀授賞式後に開かれた夕食会の席で踊る湯川夫妻。

▲父親の小川琢治京大教授と。後列左から環樹、茂樹、秀樹、滋樹。 湯川春洋提供

### 世界の知性を顕彰し続けるノーベル賞

ダイナマイトを発明し、心ならずも「死の商人」と呼ばれたアルフレッド・ノーベル。彼の平和を願う遺志によって創設されたのがノーベル賞だ。実際に授賞が開始されたのは、奇しくも20世紀最初の年、1901年(明治34)であり、以来約1世紀、世界大戦で中止になった年もあるが、世界の知性を顕彰し続けてきた。その部門は当初、物理学、化学、生理学・医学、文学、平和の5賞だったが、1969年(昭和44)に経済学が加わり、現在は6賞となっている。

さて気になる賞金だが、経済学賞をのぞく5賞はノーベル財団が運用する基金の利子が5等分される。同じ分野に複数の受賞者がいる場合は基本的に折半である。そして1901年の賞金は、15万800スウェーデンクローネだった。しかし財団の財政悪化によって年々減少、1923年に最低の11万5000スウェーデンクローネを記録する。これは財団のさまざまな努力で徐々に増額し、1987年、217万5000となり、1901年の実質水準を突破。さらに89年には300万、90年400万、91年600万と飛躍的にアップ。ノーベル財団の財政事情がよくなっていることがうかがえる。ちなみに1996年は740万スウェーデンクローネであった。

#### 日本人受賞者と賞金

| 受賞年度 | 受賞者 | 受賞年齢 | 受賞部門 | 賞金金額 スウェーデンクローネ |
|---|---|---|---|---|
| 1949 | 湯川秀樹 | 42 | 物理学賞 | 156,300 |
| 1965 | 朝永振一郎 | 59 | 物理学賞 | 94,000 |
| 1968 | 川端康成 | 69 | 文学賞 | 350,000 |
| 1973 | 江崎玲於奈 | 48 | 物理学賞 | 510,000 |
| 1974 | 佐藤栄作 | 73 | 平和賞 | 550,000 |
| 1981 | 福井謙一 | 63 | 化学賞 | 1,000,000 |
| 1987 | 利根川進 | 48 | 生理学・医学賞 | 2,175,000 |
| 1994 | 大江健三郎 | 59 | 文学賞 | 7,000,000 |

(1スウェーデンクローネ≒16円 1997年5月現在)

# "謎の連続発生"の陰で進行した労働者一〇〇万人解雇
# 下山・三鷹・松川「三大事件」の怪！

▲7月6日早朝、国鉄職員によって現場から運び出される下山総裁の遺体。轢死体は八十数メートルにわたって散乱。現場検証が始まった午前6時頃は土砂降りの雨で、遺体は相当に洗われていた。 毎日新聞社

◀下山定則。企画院技師、運輸次官を経て、この年6月に公共企業体となった国鉄の初代総裁に就任。

朝日新聞社

前年のソ連によるベルリン封鎖に加え、一〇月には社会主義陣営に入る中華人民共和国の誕生と、昭和二四年は米ソ対立が一段と緊迫した年だった。"極東のパートナー"にするべく米国が日本に持ちこんだ経済再建策は、それを忠実に実行する民主自由党の吉田茂内閣と、対抗する共産党という図式の中で、いくつもの怪事件を引き起こした。

## 自殺か、他殺か？ 下山総裁轢死事件

昭和二四年七月五日、下山定則初代国鉄総裁（四七）が出勤途上、日本橋の三越前で専用車を降り、そのまま行方不明になった。常磐線と東武線が交差する綾瀬駅近くの線路上で、バラバラの轢死体となって発見されたのが翌六日の午前零時二五分頃。寸断された下山の遺体と遺留品が、雨に濡れた線路の砂利に散乱していた。世に言う「下山事件」である。

死体解剖も始まっていない同日昼、増田甲子七官房長官は早くも「鉄道の専門家は自殺ではなく、轢かれる前に死んでいたのではないかとの見方が強い」と発表。"自殺か他殺か"――法医学界やマスコミが論争を繰り広げる中で、なぜか政府筋は他殺と予断し、新聞を利用しながら疑惑をあおっていった。

下山総裁は失踪の前日、職員九万五〇〇〇人の首切りという"初仕事"の第一弾として、三万七〇〇〇人の解雇通告をしたばかりだった。

国鉄の職員解雇のきっかけになったのが、米国デトロイト銀行の頭取で、二月に公使として来日したジョセフ・ドッジ（五九）が提案したドッジ・ラインである。これは、日本経済を再建し、緊迫する米ソ関係に向けて日本を「反共の砦」「アジアの軍需工場」として独立させるための処方箋で、労働者の大量解雇などをともなう荒療治だった。この年だけで解雇の対象になったのは、労働省による民間企業で約四四万人、公務員でも約二六万人。抵抗する労働組合の闘争は全国で過激さを増したが、中でも、約九万五〇〇〇人が対象になっていた国鉄（職員約六〇万人）の労働組合（以下・国労）の運動は、その後の闘争の帰趨を決する"天王山"だったのである。

実際に、国労の闘争は激しく、六月九日には、乗務員削減のために導入された新交番制に反対して、東神奈川や中野などの車掌区でストライキが発生。六月三〇日には、福島で共産党員五〇〇人と支持者が警察署を占拠、駆けつけようとした警官の電車が止められる「平事件」が起こった。さらには、列車妨害事件も続出し、不穏な空気が高まっていた時に「下山事件」が勃発、「三鷹事件」「松川事件」と、わずか一ヵ月余りの間に"三大事件"が連続発生したのである。

## 政治に利用された「三大事件」の"謎"

国鉄は、下山事件から六日後の七月一二日に第二次首切り六万三〇〇〇人を通告したが、「三鷹事件」が起きたのもその直後だった。

七月一五日午後九時二四分、無人電車が中央線三鷹駅構内の車庫から暴走、改札口と階段をぶち抜き、交番を全壊して民家へ突入した。六人が死亡、二十余人が重軽傷を負った「三鷹事件」について、吉田首相は「共産党は虚偽とテロを常套手段として、民衆の社会不安をあおっている」と、犯人の名指しとも思える談話を新聞で発表した。一七日からは国労の

▲下山総裁の遺留品。手帳の行動記録は、6月28日以降空白だった。

◀三鷹事件の現場。7両連結の無人電車は、駅改札口と階段をぶち抜き、駅前の交番を押しつぶして民家に突入した。 共同通信社

日本共産党員二〇人近くが次々に逮捕。疑惑の目を向けられた共産党、組合左派は降りかかる火の粉を払うのに精一杯で、ストライキの機を逸してしまう。これに追い打ちをかけるように、一八日には国鉄が国労の中央闘争委員ら五九人の免職を発令。指導者のねらい打ちで事実上の分裂に追いこまれる中、七月二一日、ついに九万四三一二人の人員整理が完了した。国労側の完璧な敗北である。

第三の「松川事件」の舞台は、平事件などのトラブルが多く、GHQ（連合国総司令部）とも折合いの悪い福島だった。〝輝ける電産（日本電気産業労働組合）の雄〟と言われた東芝の松川工場が、一万四〇〇〇人の首切りに反対して二四時間ストを行おうとしたその日に事件は起きる。八月一七日午前三時九分、東北本線の旅客列車が金谷川―松川駅間で脱線し、機関士ら三人が即死。犯行の手口から計画的なのは明らかで、結局、県内の労働運動を率いてきた国労や松川工場の組合員ら二〇人が検挙されたのである。

こうして、たて続けに起こった事件のどさくさにまぎれ、実数で約一〇〇万人にのぼったとも言われる労働者が解雇され、ドッジ・ラインは完了した。

「三大事件の中でも、この年の労働運動の流れを変える分水嶺になったのは、最初の下山総裁轢死事件でしょう。争議のヤマ場に総裁が死んだという点で、この事件には、労働者の抵抗をくい止めるだけのインパクトがあった。ところが、現在かなり知られてきているように、下山氏は噂された他殺ではなく、初老期鬱憂症が原因と見られる自殺でした。失踪後の目撃証言や、検死にあたった八十島信之助監察医が轢死（自殺か事故死）という判断を下していたこと、捜査本部が自殺の結論に達していた事実からも、明白です」

と解説するのは『下山事件全研究』の著者で、歴史研究家の佐藤一氏である。

つまり、「GHQの一部や政府筋は、下山氏の自殺を明らかにせず、謎のままにすることで〝事件は共産党、労働組合による犯行〟というイメージを植えつけ、徹底的に政治利用した」と佐藤氏は分析する。

▼G2（GHQ参謀第2部）部長ウィロビー。下山事件では、警察、新聞に圧力をかけ続けた。

実際に、三鷹・松川事件では、共産党員や労働組合員に対する見こみ捜査が行われ逮捕者も出たが、結果的には昭和三〇年、三鷹事件で非共産党員の竹内景助の死刑が確定。松川事件の方は二五年の一審判決では五人に死刑、一五人に無期懲役などが宣告されたが、その後、三三年になって、共同謀議がなかったことを立証する証拠だった「諏訪メモ」を検察側が隠蔽していたことが判明。三八年には、被告全員が無罪になって時効を迎えている。

下山・三鷹・松川の三大事件は、戦後ひたすら膨張を続けてきた労働組合の動きを大量首切りや労働組合法の改正によっておさえつつ、後に朝鮮戦争で経済復興が軌道に乗った日本が、サンフランシスコ講和条約と日米安保条約を軸に西側陣営に入る〝地ならし〟の役割を担ったのだった。

▲松川事件の現場。レールの両端2ヵ所の継ぎ目板がはずされ、枕木の犬釘が大量に抜かれていた。



## 女たちの肖像

# 「サザエさん」の二五年 庶民の生活を描き続けた長谷川町子の〝孤高〟の目

稲葉真弓

国民的漫画、空前のロングセラーとして知られる「サザエさん」が「夕刊朝日新聞」に登場したのがこの年の一二月のことだった。昭和二一年、西日本新聞社発行の「夕刊フクニチ」九州版紙上で連載が始まり、同紙東京版、「北海タイムス」「名古屋タイムス」同時掲載の過程を経て、「朝日新聞」に登板となったものだった。以来「サザエさん」は、掲載回数六四七七回、四九年二月まで二五年間にわたって紙上を飾ったが、作者の長谷川町子（二九）は、当時の漫画界の紅一点、日本の女流漫画家第一号でもあった。何よりも「サザエさん」を成功させたのはこの長谷川町子の女性としての目であり、生活者の立場から描かれた庶民の暮らしにあったといっても過言ではない。

大正九年一月生まれの彼女は、三人姉妹の真ん中。炭鉱技師だった父親がワイヤロープの会社を始めたため福岡県で育った。父親は町子一四歳の時に病死。その翌年「娘の教育なら東京だ」と奮起した母親とともに一家で上京、山脇高女（現・山脇学園高校）に入った。この頃、町子は「のらくろ」の作者・田河水泡の作品に夢中になり、ぜひ弟子になりたいと思うようになったが、これを後押ししたのが娘たちに後に〝ヒトラー〟のあだ名で呼ばれるようになった母親の貞子だった。幼時から絵を描くのが好きだった町子はぐんぐん才能を伸ばし、「少女倶楽部」などの雑誌に漫画を連載していたが、「サザエさん」の成功で、不動の人気を得たのである。

昭和三七年には文藝春秋漫画賞を受賞、以後もストレスから胃の五分の四を切りとる手術を受けつつ、アイディアを練り、五七年紫綬褒章を受章した。

「サザエさん」のキャラクターのせいか長谷川町子に「サザエさん」を重ね合わせる人も多いが、素顔の彼女は一生独身を通したうえ、漫画家の団体にも所属しなかった。昭和六〇年には原画を集めた「長谷川美術館（現・長谷川町子美術館）」を世田谷に開館。孤高を守った彼女は、平成四年五月二七日冠動脈硬化症による心不全で死去、国民栄誉賞が授与されたが、遺志により死が公表されたのは一ヵ月以上経た六月三〇日のことだった。ちなみに単行本は『サザエさん』六八巻、その他一〇八冊、総部数は軽く四〇〇〇万部を突破するという。

◀執筆中の長谷川町子。「サザエさん」は、27年4月16日から朝刊に連載された。

## 勝者・敗者

# 休場決定直後に野球見物！ 奔放なふるまいを貫いた〝戦後派横綱〟前田山の引退

阿部珠樹

前田山は〝危険な男〟だった。得意技は張り手。しかも仕切りの時に、手のひらにたっぷり砂をつけておき、それをそのまま相手の顔面にたたきつける荒っぽいものである。この奇策で大関時代の昭和一六年、横綱双葉山を破ったこともある。「相撲は喧嘩」を全身で表現する力士だった。

九年半も大関をつとめ、横綱に昇進したのは昭和二二年の六月。しかし、この頃には、すでに全盛期の闘志やパワーは失われていた。前田山は、昇進後の六場所で二二勝二七敗二五の休みという惨憺たる成績しか残せなかった。

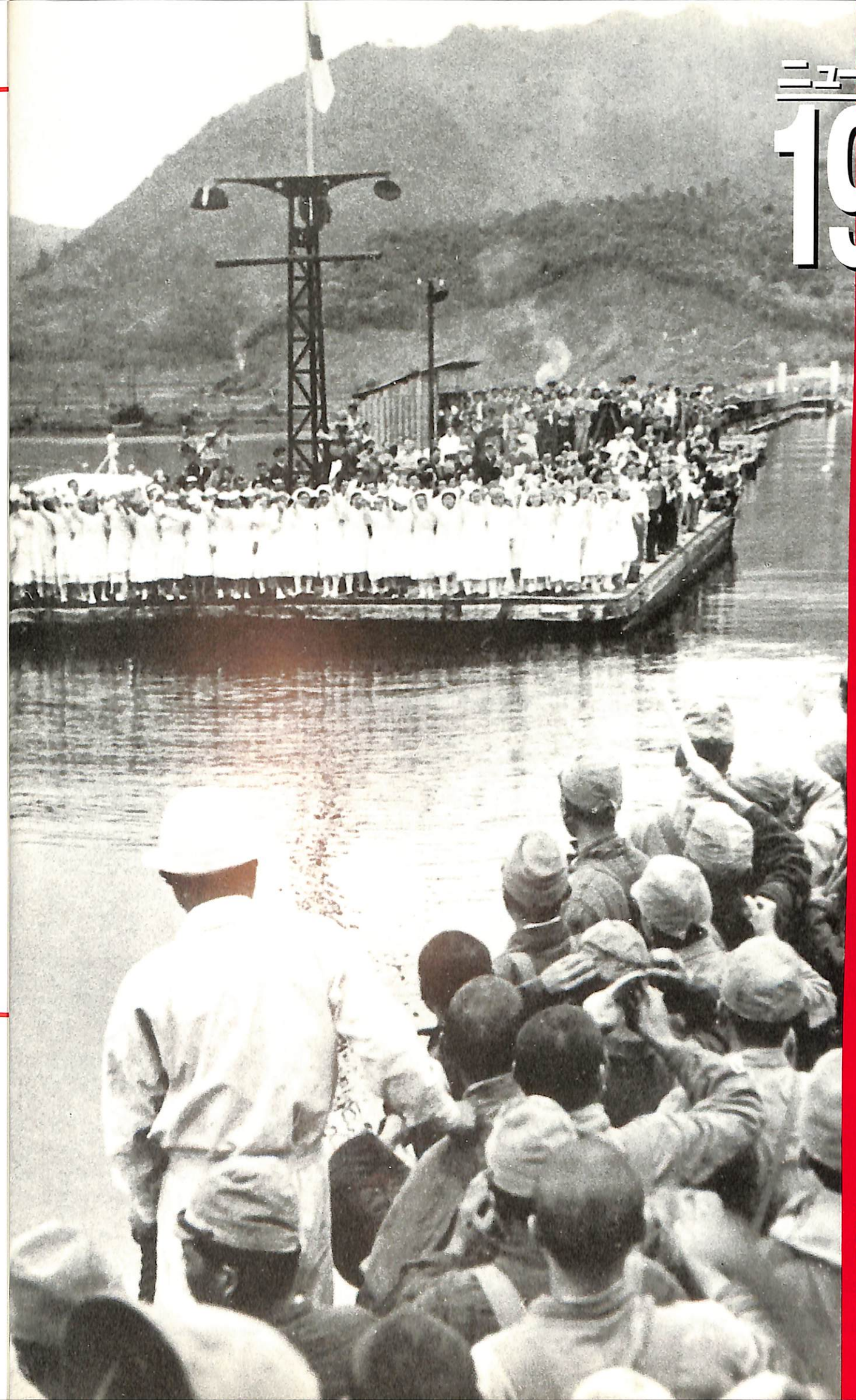
昭和二四年の一〇月、三五歳の前田山は大阪の秋場所を七日目から休場、東京に戻っていた。すでに土俵への意欲は失せていたと思われる。その心の隙間を埋めるニュースがあった。アメリカの3Aチーム、サンフランシスコ・シールズの来日である。戦後初のアメリカ野球チームの来日とあって、シールズは、全国で熱狂的な歓迎を受けていた。無類の野球好きで、みずからもユニフォームを着てプレーするほどだった前田山の血が騒いだ。矢も盾もたまらず、大阪から帰った翌日の一〇月一五日、後楽園球場の日米親善試合に駆けつけたのだ。しかも背広姿で。

いかに背広を着ていても、横綱が人目につかないはずはない。記者に見つかり、シールズのオドゥール監督との記念撮影を頼まれる。普通なら断るところだが、そこは天下の変わりもの横綱、堂々と写真におさまってしまった。

「横綱が場所をサボり、野球見物」

こんな無茶を相撲協会が見逃すはずがない。不謹慎を理由に引退を勧告したが、前田山はなかなか応じない。しかし、世論の非難もあび、とうとう耐えられずに詰め腹を切らされてしまった。

ひたすら自己を磨き、人々の模範たらんと精進した双葉山などとはあまりに対照的な生き方。しかし、この奔放なふるまいこそ、まぎれもなく戦後の精神が生み出したものだった。

▲引退後は高砂部屋を引き継ぎ、初の外国人力士・高見山を育てるなど、相撲の国際化に貢献した。 日刊スポーツ

NHKサービスセンター提供

共同通信社

▲「とんち教室」放送開始（1月3日）石黒敬七、長崎抜天らのレギュラー解答者と、司会・青木一雄の「出席をとります」の名口調で親しまれたクイズ番組は、ほぼ20年間続いた。

▼日劇でショー「歌う不夜城」（1月1日）榎本健一、藤山一郎、山口淑子、京マチ子らのほか、人気絶頂の"ブギの女王"笠置シズ子が出演、日劇ダンシングチームと歌い踊る華やかな舞台となった。

▲初の国家公務員試験実施（1月16日）行政機関の整備・拡張に迫られたため、急拠実施、第1回目の公開競争試験となった。就職難の折、1万人以上もの応募者があり、1032人が合格した。

◀蔣介石総統、辞任（1月21日）中国共産党は14日、国民党政府に対し全面降伏を要求。この日蔣は、ついに辞任した。写真は16日、国民党軍守備隊に最後の閲兵をする蔣。

毎日新聞社

▶全国「新制」高校ラグビー開幕（1月1日）六・三・三制になって初の大会が東京で。8校が参加し、初日、秋田工業高は16対3で修猷館に勝ち（写真）、5日の決勝戦も13対0で四条畷高を下した。

毎日新聞社

## 昭和24年1月

1（土）●大都市への転入抑制（21年3月〜）解除。
●「朝日新聞」に米漫画「ブロンディ」連載開始。
●中国共産党、北平（北京）市人民政府樹立（14日国府に和平八条件を提示。21日蔣介石辞任）。
2（日）●NHKラジオ、クイズ「私は誰でしょう」放送開始（3日「とんち教室」放送開始）。
3（月）●早川雪洲、米映画界復帰のためパリを出発。
4（火）●浦和競馬での八百長で一万余人の観衆が騒動。
5（水）●米、占領予算の半額を日本に割当てと言明。
6（木）●李承晩、日本の朝鮮侵略に賠償請求と言明。
7（金）●中国航空の香港―東京間一番機が羽田着。
8（土）●極東空軍B26、西宮上空で演習中に空中衝突。
9（日）●フィリピンでの戦死者四八三四人の遺骨が米軍輸送船「ボゴタ丸」で佐世保港に帰着。
10（月）●郡是製糸、トリコット製靴下の縫製を開始。
●未亡人総数一八七万七一六一人と厚生省発表。
11（火）●大阪で「アカハタ」販売員一斉検挙。
12（水）●東京軍政部、公立学校は窓ガラスを購入し寒風から児童を守るよう警告。
13（木）●政府、「日の丸」の旗を希望配給すると決定。
14（金）●GHQ、外国からの対日投資を制限つき許可。
15（土）●初の「成人の日」。
16（日）●二〇〇万円宝籤当選の女性が、「娘をかたに三〇万円」など、無心殺到で目をまわすと新聞に。
17（月）●文部省、新制大学入試問題の例題を公表。
18（火）●厚生省、検疫規則により中国・フィリピンなどを天然痘流行地に指定。
19（水）●米からの観光客増加、今年は三万人と新聞に。
20（木）●香川県喜兵衛島に海賊出現（瀬戸内海で頻発。3月総勢二〇〇〇人の海賊団摘発開始）。
21（金）●GHQ、東京にユネスコ事務所設置を許可。
22（土）●GHQ、日本への遺骨の小包郵送を許可。
23（日）●第二四回総選挙（民自が過半数、社会惨敗）。
24（月）●参院副議長・松本治一郎らを公職追放と発表。
25（火）●ソ連と東欧五カ国、経済相互援助会議（コメコン）の設立を決定。
26（水）●法隆寺金堂内陣、全焼。国宝壁画が焼失。
27（木）●GHQ、生産の阻害許さずと労使に言明。
28（金）●白井義男、日本フライ級の王座獲得（12月15日バンタム級制し二階級王座に）。
29（土）●中国共産党、国府総統代理に三項目の新要求。
30（日）●永井隆の被爆手記『長崎の鐘』刊行。
31（月）●全国一斉に新制大学・専門学校進学適性検査実施。六〇点満点で平均二三点。

## ニュース・ファイル
# 1949

## フォト＋日録で再現する365日

世界記録を連発した水泳の古橋、そしてノーベル物理学賞の湯川博士、二つの話題は敗戦から立ち直りつつあった日本人に大きな自信と希望を与えた。一方、ドッジ・ライン、一ドル＝三六〇円の為替レート、シャウプ勧告など、日本経済のレールが敷かれてゆく。

◀舞鶴港に「赤い」引揚げ者（6月27日）ソ連からの引揚げが7ヵ月ぶりに再開、約2000人が帰国したが、ソ連での思想的影響を受けて「インターナショナル」を高唱。これまでとはまったく異なる帰還だった。

毎日新聞社

毎日新聞社

**▼万年筆、大量輸出(2月6日)**昭和21年にGHQが平和産業復興輸出品優先生産方針第1号に指定、前年秋に14金のペンを2万4000本タイに輸出、この日さらに約4万本がインドに空輸されることになった。

毎日新聞社

**▲能代大火(2月20日)**深夜、製樽工場から出火、強風にあおられた火は市内繁華街をなめ2238戸が焼失。戦後の消防体制の立て直しがはかられている最中だった。

共同通信社

**◀ピクチュラマ全国巡回(2月24日)**GHQの好意で実現した大幻灯大会。音楽とともに5台の映写機がカラー映像を映し出すと、観客はしばし陶然。この日の東京・日比谷公会堂が初公開だった。

毎日新聞社

**▲三条美紀、結婚式(2月3日)**事務員から「踊子物語」で大映の看板スターにのし上がった20歳の美人女優が、青年実業家と華燭の典。独身女性の垂涎のまととなった。写真のケーキは時価2万円という。

**◀中国から戦犯ら帰国(2月4日)**服役中だった251人が横浜港に到着、巣鴨拘置所に移った。無罪帰国者9人の中には中国派遣軍総司令官・岡村寧次元大将の姿があった。

毎日新聞社

**▲道路になる三十軒堀(2月)**東京・銀座の中央通りと昭和通りの間にあって慶長17年(1612)来の歴史を持つ運河。戦後、焼け跡の瓦礫処理場となり、前年度から埋め立てが進んだ。

## 昭和24年2月

1(火)●労働省、東北農村部で続出する子どもの人身売買監督徹底を通達。
●マ元帥の経済顧問ジョセフ・ドッジ来日。

2(水)●福井税務署、滞納で日本一長者に差し押さえ。

3(木)●大蔵省、反税運動煽動で荒川税務署員を免職。

4(金)●中国で服役中だった戦犯二五一人が帰国。
●世界労連、日独の加盟を承認と発表。

5(土)●塩原温泉で火災。旅館・病院など八一棟焼失。

6(日)●日本の国際卓球連盟加盟が承認される。

7(月)●卵値下がりで一級品が一個二〇円と新聞に。

8(火)●三島市の日大予科で授業料値上げ反対闘争に武装警官出動。

9(水)●尼崎市で武装警官一二〇〇人が密造酒集落を急襲し一一二人検挙。
●文部省、教科書検定基準を制定。

10(木)●都内四デパートで税金滞納差し押さえ品公売。
●米陸軍省、「ゾルゲ事件」報告書を発表。

11(金)●東京都港区長選で棄権防止に選挙籤実施。景品はタバコ・バナナ・飴など。

12(土)●東京証券取引所設立(15日大阪証券取引所)。

13(日)●東京軍政部、教員の共産党選挙ビラ配布は違法で解雇の理由になると発表。

14(月)●民主党、連立派(総裁・犬養健ら)と野党派(前総裁・芦田均ら)に事実上分裂。

15(火)●建設省、水害の危険がある一〇の大河川に総工費一七〇〇億円の大規模治水計画発表。

16(水)●第三次吉田茂内閣発足。蔵相・池田勇人。

17(木)●神戸で麻薬密輸団の捜査。二六人取り調べ。

18(金)●いわし不漁深刻で水産庁の調査第一船が出港。

19(土)●住宅面積は全国平均一人三・四七畳、東京都は二・七九畳で最低と建設省発表。

20(日)●能代市で大火。二二三八戸が焼失。

21(月)●二〇代後半の男女比は七八対一〇〇と判明。

22(火)●アナタハン島を占拠し元日本兵二八人と女性一人が生活と新聞に(26年7月二〇人帰国)。

23(水)●農林省、加工炭の需給規則を改正(知事への登録業者による自由売買制)。

24(木)●エジプトとイスラエル、第一次中東戦争休戦協定に調印。

25(金)●米陸軍長官、日本攻撃の際は米軍反撃と言明。

26(土)●元子爵・石川重之、銭湯での窃盗容疑で逮捕。

27(日)●松山城で放火火災。国宝の筒井門などを焼失。

28(月)●多摩全生園で新薬プロミンの使用を求める患者七人が二四日からのハンストを中止。



共同通信社

毎日新聞社

**▲「のど自慢」優勝者は農林省食糧管理局女性事務員(3月20日)**NHKが東京・神田の共立講堂で実施した第2回優勝大会で優勝した荒井恵子(21)。後、のど自慢出身初のプロ歌手に。

**▲ドッジ・ライン発表(3月7日)**日本経済を自立させるために来日したGHQ経済顧問ドッジ公使が初の記者会見。米国援助と国内補助金という"竹馬"に乗っているような日本経済を批判。経済安定九原則によるデフレ政策を強行した。写真は12月の送別会で(右端)。

NHKサービスセンター提供

**▶郵便自動車、復活(3月2日)**昭和15年まで「走る郵便局」と呼ばれ、盛り場などへの出張サービスを行っていたが、戦争で中断。新造された3台のうち東京逓信局に1台が配属となり、東京・数寄屋橋に登場(写真)。

朝日新聞社

**▼月賦販売再登場(3月)**昭和初期に広まったが、戦争で中断。しかし経済復興につれて、前年、リッカーミシンが参入するなど、復活し始めた。写真は、家具と電気製品中心の販売店。

毎日新聞社

**▲テレビ実験公開(3月20日)**NHKがテレビ知識の普及をはかるため、東京電気研究所で22日まで3日間実施した。前年6月に次ぐ戦後2度目の公開で、戦前の「3号カメラ」を使い、有線で行った。放送開始24周年記念展覧会の催し物のひとつ。

共同通信社

**◀池袋マーケット取り壊し(3月2日)**行政処分による立ち退き命令で前日から作業開始、365軒全員が働き慣れた場所を後にした。戦後各所に生まれたバラック・マーケットが区画整理のため、こうしてひとつまたひとつと消えていった。

## 昭和24年3月

1(火)●マ元帥、日本は「太平洋のスイス」になり中立を維持するよう期待と言明。

2(水)●「走る郵便局」郵便自動車が九年ぶりに復活。

3(木)●労働省、特殊飲食店の接客婦への労働基準法適用を通達。

4(金)●閣議、失業対策閣僚会議の設置を決定。

5(土)●新興宗教「お光さま」教祖、脱税で差し押さえ。

6(日)●警察標語発表。「悩むよりどれ警察へ一走り」。

7(月)●ドッジ、経済再建の「ドッジ・ライン」発表。
●河原崎長十郎ら前進座の六九人が共産党入党。

8(火)●仏、ベトナムのバオダイ政権を承認。

9(水)●新制都立高校の募集要項決定。

10(木)●公務員試験合格者四六四四人発表。胸部疾患で不合格者五百余人。

11(金)●疎開した東洋文庫蔵書、国会図書館へ搬送。

12(土)●米人類学協会が柳田國男を日本人初の外国人名誉会員に推挙と新聞に。

13(日)●肉・魚など軒並み公定価格割れと新聞に。
●都内料飲店一万余店が無許可営業と新聞に。

14(月)●群馬県の岩本発電所が完成し送電開始。

15(火)●極東委、A級戦犯の裁判打ち切りと発表。
●横浜で日本貿易博覧会開幕。

16(水)●東京—モスクワ間の無線電話回線が停止。

17(木)●南海・別所投手の巨人引き抜き事件が、別所の二ヵ月出場停止、巨人の一〇万円罰金で決着。

18(金)●埼玉県知事・西村実造を収賄容疑で強制収容。

19(土)●交通巡査の制服試作品三種が完成し、銀座の路上で人気投票実施。

20(日)●東京・有楽町でNHKがテレビ実験公開実施。

21(月)●ロンドンで国際柔道大会開催。

22(火)●R・テイラーとV・リー主演「哀愁」封切。

23(水)●ウランバートル捕虜収容所での同胞虐待で、「吉村隊長」を告発(「暁に祈る事件」)。

24(木)●東京各区の小学校低学年で三部授業と決定。
●日韓通商協定、成立(総額八〇〇〇万ドル)。

25(金)●都防疫課、築地などでねずみ九〇〇〇匹を捕獲。

26(土)●商工省、家庭への電熱割当を倍増と発表。

27(日)●GHQ、戦時中剝奪の外国特許権返還と発表。

28(月)●政府、本土から沖縄への旅券発給を開始。
●厚生省、ヒロポンなど覚醒剤六種を劇薬指定。

29(火)●大蔵省・商工省、日本出版配給を閉鎖機関に。

30(水)●新潟県名立町の海岸で漂着機雷が爆発。児童ら六三人死亡、三六人重軽傷。

31(木)●東京消防庁、「一一九番」を開設。

## 証言・あの日この日
# 山下　武(22)

**1月20日(木)**　〈終戦後すでに四年にもなるのに講和条約の締結が遅れ、翻訳が解禁にならぬまま、海外文学のご馳走のお預けを食っているのが残念でならない。これだけは一刻も早くなんとかしてもらいたいものである。古典を読み直すにはいい機会だけれど、風の便(たよ)りに海外の文芸の動静を耳にするたび、居ても立ってもいられない思いだ。この分だとわれわれ日本人はますます取り残されてしまう〉(山下武(やましたたけし)『青春読書日記1946—1949』)

法政大学文学部に通う山下武青年はむさぼるように本を読む。しかし活きのよい海外文学はなかなか翻訳されない。大学図書館の蔵書も〈お寒いかぎり〉。〈いますぐ読みたいと思うような本は僅かに、ジョン・ドス・パソスの『北緯42度』(早川二郎訳)、ジョン・スタインベックの『怒りの葡萄(ぶどう)』くらい〉。　(坪内祐三)

毎日新聞社

**▶台湾バナナ、横浜港に到着(5月24日)**戦後初の輸入果実。英国船「ロクサング号」に積まれて3139籠分が入荷した。写真は店頭に並べられたバナナを買い求める人々。値段は1本30〜40円。輸入食糧の放出も年間通して平均化する。

毎日新聞社

**▼証券取引所再開(5月14日)**GHQが、東京・大阪・名古屋の各証券取引所の再開を許可。東京はこの日開所式を行い(写真)、16日から営業した。再開時にGHQは一般投資家の保護を指示。東証上場は681銘柄だった。

**▼都公安条例制定反対闘争(5月30日)**デモ規制条例化の動きに対し、都労連を中心とするデモ隊約3000人が都議会に押しかけ、警官隊と衝突。その混乱の中で都電車掌・橋本金二が都庁3階から墜死した。

毎日新聞社

**▶人間天皇、福岡巡幸(5月29日)**昭和21年2月の神奈川県を皮切りに始まった「戦後巡幸」が、1年半ぶりに再開され、この年は九州各県へ。三池炭鉱三川鉱では作業服を着て坑内2500メートルを1時間40分も歩いて作業を見学。炭鉱労働者を激励された。

共同通信社

**▲シャウプ使節団来日(5月10日)**コロンビア大学の教授ら7人が、日本の税制を調査、9月に恒久的税制の確立などを柱とする「シャウプ勧告」を発表。写真はシャウプ博士と出迎えの池田勇人蔵相。

共同通信社

ユニフォト・プレス

**▶西側12ヵ国、北大西洋条約調印(4月4日)**米、仏、英、加など各国代表がワシントンのアメリカ国務省講堂に参集。加盟国の集団自衛権発動などを盛った条約に調印。8月24日、条約機構(NATO)が発足。

共同通信社

**◀女優リタ・ヘイワース、インドの大富豪と結婚(5月27日)**式は南仏の公会堂で行ったが、披露宴で屋敷のプールに750リットルもの香水を注ぎ、一人15本のシャンパンをふるまった。

読売新聞社

**▶三原脩監督「ポカリ事件」(4月14日)**後楽園球場で行われた巨人対南海戦の9回表、南海・筒井の走塁をめぐって紛糾し、巨人側は守備妨害だと抗議。筒井を殴った三原監督は、1シーズン出場停止処分とされた。

**◀江ノ島弁天橋渡り初め(4月25日)**神奈川県片瀬海岸と江ノ島が陸続きになった。全長400メートル、総工費1400万円。写真中央は先導する「ミス鎌倉」。神奈川軍政官キートレー、内山県知事らが後ろに続いた。

毎日新聞社

**▼引っ越し簡単、たたみこみ住宅(4月5日)**この日の新聞に紹介された6坪の住宅は、4畳半(左)を6畳の方に押しこむと、トラックにも積めて家ごと引っ越しが可能。引き出し式ベッド、押し入れなどもついて11万円。

朝日新聞社

朝日新聞社

**▲闇タバコ取締り(4月8日)**都内に「ピース」や「光」のニセものが横行、利根川や東京湾の水運が利用されるため、快速監視艇「あさかぜ号」(15人乗り)を水際作戦用として新造した。

### 昭和24年4月

1(金)●野菜類の統制を九年ぶり撤廃。競(せ)り売り再開。
●東京の新宿三越に屋上遊園が復活。
2(土)●週刊「読売スポーツニュース」創刊。
3(日)●渋谷の「ハチ公像」前で全国秋田犬コンクール。
4(月)●団体等規正令公布施行。左翼団体の規制目的。
5(火)●NHK、「陽気な喫茶店」放送開始(内海突破(うつみとっぱ)の「ギョッ」が流行語に)。
6(水)●国会、病院船「阿波丸」撃沈事件(20年4月)での米への賠償請求権放棄を議決。
7(木)●前年度長者番付で金融業の森脇将光(まさみつ)が第一位。
8(金)●日本民俗学会(会長・柳田國男)設立。
9(土)●神戸市の済生会兵庫県病院の看護婦六人が、「生きていても仕方ない」と集団服毒自殺。
●農林省、過重な供出と所得税のため二万四七三五農家が耕作放棄と発表。
10(日)●第一回婦人週間(参政三周年記念)始まる。
11(月)●発明協会主催の第一回全国発明者大会開催。
●作家・芸能人所得一位、吉川英治と発表。
12(火)●警視庁、浮浪児十数人を泥棒に仕込み数百万円稼(かせ)いでいた夫婦を検挙。
13(水)●池田蔵相、米の対日援助が贈与か貸与かは現時点では不明と答弁。
14(木)●巨人・三原監督が南海戦で暴行退場(出場停止)。
●役員総辞職の社会党が再建全国大会開催。
15(金)●主婦連、「主婦の店」八六九業者を選定。
16(土)●東京・後楽園に初の国営場外馬券売り場開設。
17(日)●花見の人出で上野・鎌倉など各駅の切符の売り上げが戦後最高を記録。
18(月)●アイルランド、共和国を宣し英連邦から独立。
19(火)●前年九月以来脱税摘発は六二億円弱と大蔵省。
20(水)●パリで第一回世界平和擁護大会開催。
21(木)●中国で国共和平会談決裂。解放軍が進撃開始。
22(金)●米団体が慶応大で聖書一〇〇〇部を無料配布。
23(土)●最後の酒類配給。合成清酒一合三四円九八銭。
24(日)●阪神—巨人戦に観客殺到。阪神甲子園駅で一人死亡、球場の扉壊し多数が無料入場。
25(月)●一ドル=三六〇円の単一為替レート実施。
26(火)●札幌で日本人殺害の米兵に軍法会議で死刑。
27(水)●新宿・戸山ハイツの三三戸再抽選に一万人。
28(木)●大阪で天然痘患者発生(〜6月9日六二人)。
29(金)●IOC、日・独のオリンピック復帰を承認。
30(土)●厚生省、避妊薬七種の発売を許可。
●河出書房、戦後初の全集・大系本『現代日本小説大系』を刊行。

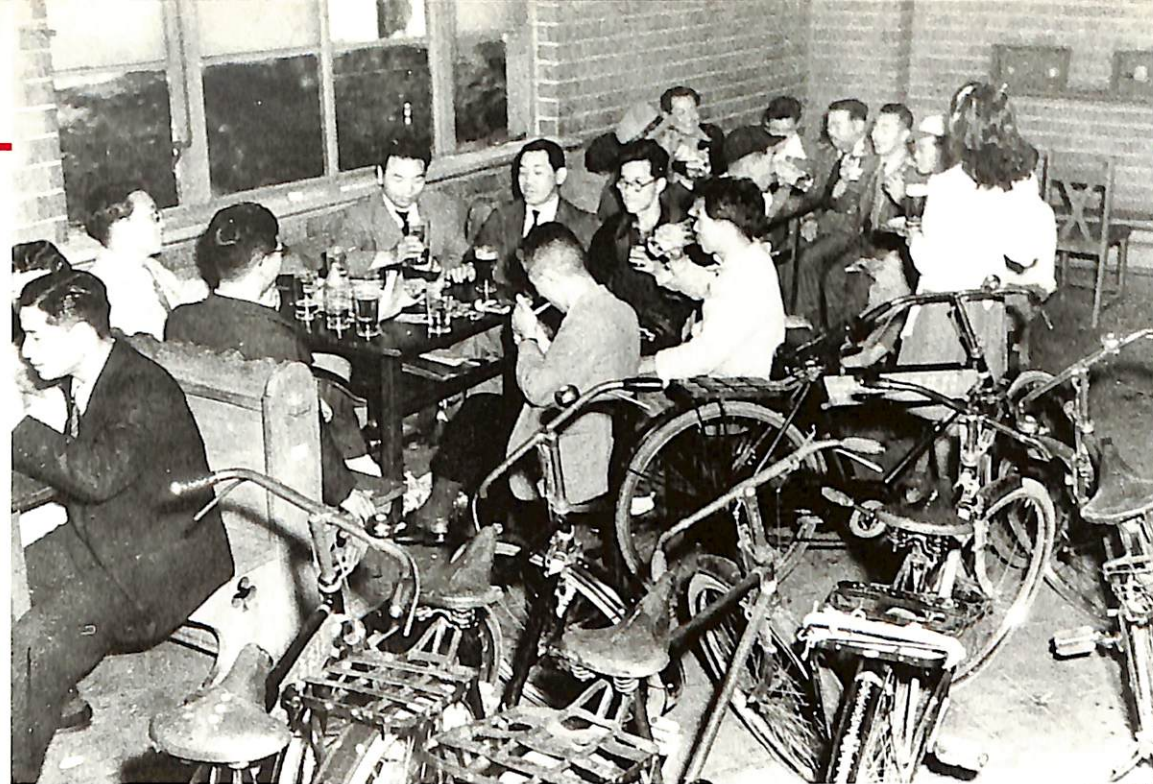


### 昭和24年5月

1(日)●倉金章介(くらかねしょうすけ)「あんみつ姫」が「少女」で連載開始。
2(月)●婦人団体協議会結成。四四団体が参加。
3(火)●こどもの日記念の「おとぎ列車」が上野発。
4(水)●GHQ、日本製DDTの配給統制を解除。
5(木)●初の「こどもの日」。
●日本柔道連盟創立。第一回全日本選手権開催。
6(金)●酒類が自由販売となり、価格引き下げ。
7(土)●二二年七月以来の全国料飲店閉鎖を解除。
8(日)●日本通運、ノースウエスト航空代理店となる。
9(月)●全鉱連、四国・九州から第一次波状スト突入。
10(火)●税制改革のシャウプ使節団、来日。
11(水)●国連総会、イスラエルの加盟を承認。
12(木)●極東委員会の米代表、日本に対する賠償取り立てを打ち切ると声明。
13(金)●物価庁、九大都市の交通料金値上げを不許可。
14(土)●炭労七四〇組合四二万人が四八時間スト突入。
15(日)●佐賀県営競馬で大穴。連勝式配当が一七万円。
16(月)●支笏(しこつ)・洞爺(とうや)湖一帯を国立公園に指定。
17(火)●石渡満子・三渕嘉子、初の女性判事補に任命。
18(水)●函館—東京間のハトレース開催。一位は戦前より一〇時間遅い二二時間五分。
19(木)●中労委の斡旋(あっせん)案で石炭争議、妥結。
20(金)●ソ連、日本人捕虜全員九万五〇〇〇人を年内送還と発表(日本側計算は四十万余人)。
21(土)●東京の新宿御苑が一般開放(入園料二〇円)。
●ジャン・ギャバン主演「大いなる幻影」封切。
22(日)●多摩川畔で結婚雑誌主催の見合い大会開催。
●「湯の町エレジー」「異国の丘」などヒットしレコードは歌謡曲時代、と新聞に。
23(月)●吉田首相、衆院で講和は意外に早そうと答弁。
24(火)●ドイツ連邦共和国(西ドイツ)成立。
●台湾バナナが戦後初めて輸入される。
●年齢の数え方が法律上満年齢に(施行翌年)。
25(水)●通商産業省設置。商工省・貿易庁・石炭庁廃止。
26(木)●ザビエル来日四百年祭のためローマからザビエルの「奇跡の右腕」が空輸される。
27(金)●日本電気、三五六九人に解雇通知を直接送達。
28(土)●国鉄初代総裁に下山定則(しもやまさだのり)が内定。
29(日)●京都府佐賀村(現・福知山市、綾部市)の全村二千余人がカトリック改宗を決意と新聞に。
30(月)●都議会で公安条例制定反対のデモ隊三〇〇〇人が警官隊と衝突。東交労組員が死亡。
31(火)●国立学校設置法公布。新制国立大六八校を各都道府県に設置。

毎日新聞社

**▶国電スト絶対反対の煙突学生(6月10日)**東京駅の煙突のてっぺんに登り「学校に行けないので早くやめて」と演説。ストは翌日朝、GHQの命令で中止されたが、約17時間煙突にい続けた。

**◀ビヤホール再開(6月1日)**戦時中の「享楽追放」から生まれた料飲禁止が5月に解除、酒も自由販売になり、東京では21店で営業され、にぎわった。ジョッキ1杯100〜300円。店内の自転車は盗られてしまうおそれがあったため。

朝日新聞社

**◀盛大に「桜桃忌」(6月19日)**東京・三鷹町の禅林寺で作家・太宰治の一周忌がいとなまれた。写真は多数のファンの前で墓石に酒を手向ける娘の園子ちゃん(9)。

毎日新聞社

**▼新制大学発足(6月1日)**六・三・三・四制に基づき、68校の新制国立大学が誕生。写真は信州大学の開学式で、この大学は旧制松本高校をはじめ8校からなり、県内数ヵ所に学部が分散。

**▲ライオン到着(6月30日)**上野動物園に米ユタ州ホーゲル動物園から2頭が贈られた。「ナイル」「アリス」と命名。一緒に来たピューマとスカンクは初のお目見えだった。

**▶アドバルーン復活(6月17日)**戦時中姿を消していたが、銀座に久々に出現。合成樹脂製風船に水素ガスを充填。通称ニュー・バルーン。1ヵ月10万円で盛り場を巡回。

朝日新聞社

## 昭和24年6月

- **1(水)** ●東京の二一店など大都市でビヤホールが復活。●国鉄と専売公社が公共企業体として発足。●国民金融公庫設立。初日来店一万人超える。●日本工業規格（JIS規格）制定。●雑誌「夫婦生活」創刊（七万部即日完売）。
- **2(木)** ●新制国立大学の学長発令（総長を学長と改称）。
- **3(金)** ●国鉄労組、警察官の顔パス乗車拒否を決定。
- **4(土)** ●持株会社整理委、三菱重工の三分割決定指令。
- **5(日)** ●北海道唯一の城、松前城（国宝）が全焼。
- **6(月)** ●米帰化法の人種制限撤廃。在米日本人八万余人も市民権を獲得。
- **7(火)** ●厚生省、中絶により出生率低下と発表。
- **8(水)** ●ILO総会に日本から戦後初めて参加。
- **9(木)** ●国鉄の東神奈川車掌区がスト突入、国鉄の組合管理を決議（翌日「人民電車」を運行）。
- **10(金)** ●東京駅の煙突上で学生が国電スト中止要求。
- **11(土)** ●東京都、失業対策事業の日当を二四五円と決定（「ニコヨン」の語源）。
- **12(日)** ●ガーナのエンクルマ、会議人民党結成。
- **13(月)** ●組合費の給料天引き否認する人事院規則施行。
- **14(火)** ●映画倫理規程管理委員会（映倫）設立。
- **15(水)** ●日本製鋼広島製作所で解雇をめぐり労組員と警官隊一五〇〇人が衝突。四三人負傷。
- **16(木)** ●国際水泳連盟、日本の復帰を承認と通告。
- **17(金)** ●全国賃金調査。男七五五七円、女三一二五円。
- **18(土)** ●吉田首相、教育勅語に代わる「教育宣言」作成を文教審に諮問。
- **19(日)** ●東京都未亡人同盟結成。
- **20(月)** ●九州・四国にデラ台風。死者・不明四一八人。
- **21(火)** ●GHQ、軍政局・部を民事局・部に改称と発表。
- **22(水)** ●日教組、政治活動弾圧に対し闘争指令と決定。
- **23(木)** ●メチルウイスキーによる死亡者続出で東京都が一斉調査、台東区などで多数を押収。
- **24(金)** ●優生保護法改正で経済的理由での中絶合法化。
- **25(土)** ●戦後初の芥川賞決定。由起しげ子『本の話』と小谷剛『確証』。
- **26(日)** ●日本美術家連盟（会長・安井曽太郎）結成。
- **27(月)** ●ソ連引揚げ船「高砂丸」、舞鶴に入港。●韓国駐留米軍が撤退を完了。
- **28(火)** ●祖国統一民主主義戦線（25日結成）、南北朝鮮の人民自身による平和統一案を発表。
- **29(水)** ●列車妨害続発に、総裁「政治的意図の印象」と。
- **30(木)** ●平市で馘首反対の掲示板めぐり共産党員と警察が衝突（騒擾罪適用。平事件）。



# 20世紀博物館
# がす資料館 東京・小平市
## 生活の基礎エネルギーが見せる闇を照らす〝魔術〟の系譜

桑原茂夫

▲人々を驚かせたいろいろなガス灯が並んでいる「ガス灯館」コーナー。輸入品も少なくない。「がす資料館」の庭には、今も灯をともすガス灯が十数本立っている。　乙咩雅一

戦争が終わってほとんど廃墟と化した町の中、人々は煮炊きなどに便利なガスを求めたが、ガスを供給する側は、おいそれとはガスを送りこむわけにいかなかった。地中のガス管が破損していたりすれば、ガスはたちまち有毒・可燃性の危険物質となるからだ。

東京ガスが運営する「がす資料館」の休憩室の壁に彫られたレリーフがその当時の様子を描き出している。破壊されたガス管を掘り出し、安全なガス管につけ替える作業に、ガス会社の面々が泥まみれになって取り組んでいる。焼け跡ではこんな作業も行われていたのである。

こうして、現在のように一日二四時間まるまるガスが供給されるようになったのは、昭和二四年。一〇年ぶりのことだったそうだ。そして生活も次第に落ち着いたものになってくる。

ガスはまさしく生活とともにあったのだが、かつて明治時代には、夜の繁華街を明るく照らし出す魔法のエネルギーでもあった。明治五年に横浜で、七年に東京で、夢の〝ガス灯〟がともされている。

この「がす資料館」には、煉瓦造りの二棟の建物があって、それぞれ「ガス灯館」「くらし館」と名づけられている。そのように二分されるほど、ガス灯は、ガスの歴史に大きな意味を持っていた。

▶明治初期に使われていた菊形のイルミネーション。そのレプリカに火をともした。

それまでは蝋燭の炎が頼りだったところへ、その数十倍の明るさを持つガス灯が登場したのだから、人々の目がガスに向けられたのは当然のことだった。

「ガス灯館」では、銀座通りにガス灯を配置した際のプランの原図を見ることもできるが、それによると、通りにそってかなり密にガス灯が並ぶようになっている。

新しい煉瓦造りの建物を背景に、江戸と明治の時代風俗が交錯する往来の様子を、炎の揺れるガス灯が照らし出すのだから、これはもう、何か巨大なからくりが仕掛けられたような、実にファンタジックな光景であっただろう。

この「ガス灯館」には、当時のガス灯と同じ仕様の装置に、実際に点火して見せてくれるコーナーがある。そこで蝋燭の炎と比べると、やはり段違いに明るく、パワフルだ。

▲戦前に作られた蟹形ストーブ。火がつくと真っ赤になって、蟹のように見えるというユーモラスな仕掛け。

ガス灯を応用してイルミネーションも作られた。ネオンサインのようなものである。ここにはそのレプリカもあるが、直火の迫力は圧倒的だ。当時の人は暗闇の中でどう感じたのだろうか。

さて「くらし館」の方に目を転じると、古きよき時代のガス器具が、当時の広告と一緒に並んでいる。

アイロンや冷蔵庫など、突拍子もないガス器具も面白いが、今ではどこにでもあるストーブや湯沸かし、コンロ等々のガス器具が、それぞれユニークな表情を見せているのがもっと面白い。その〝作り〟に、昔の人の新鮮な驚きや歓びが感じられるからだ。それは、同時に展示されている当時の広告からも感じられることで、なかなか飽きさせないのだった。

▲生活用のガス器具は、このような珈琲沸かし器やアイロンなど、あらゆる方面にわたっていた(昭和初期)。アイロンの広告モデルは当時の大スター田中絹代。

**●がす資料館**
東京都小平市大沼町二―五九〇
☎〇四二三―四二―一七一五
西武新宿線小平駅から徒歩二〇分
開館時間＝一〇時〜一七時
休館日＝月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)、年末年始
入場無料

ベストセラー

# 希望も悲しみも本から得た時代『細雪』と『この子を残して』

谷崎潤一郎の『細雪』は、昭和二一年六月に上巻、二二年二月に中巻、二三年一二月に下巻が刊行（中央公論社）されてようやく完結するや、この二四年にはベストセラーのリストに顔を出した。大阪の商家の四人姉妹の生活を淡々と描いた作品で、日中戦争が起こる直前から、太平洋戦争勃発の年まで、三女・雪子を軸に、実際に起きた事件なども描き出しながら話は進んでいく。

最初に発表されたのが昭和一八年一月発行の「中央公論」誌だったから、まるまる六年近くかかって完結したことになる。その原因は戦時中の軍部の圧力にあった。雑誌連載の予定がたった二回で、〝時局柄不謹慎〟の誹りを受けて、中止を余儀なくされたのである。翌一九年に自費出版で上巻を刊行したが、これも当局の知るところとなり、ひたすら時機の到来を待つほかはなかった。

一方、すでに『長崎の鐘』を著し、戦後という時代を象徴する存在となっていた永井隆のエッセイ『この子を残して』（講談社）がベストセラーになった。

永井隆は、長崎医科大学の放射線専門医で、その仕事のために白血病にかかり、さらに長崎の原爆で被爆、病床に伏す。まもなくやってくる死を前にして、孤児となる子どもたちの前途を案じながら、科学者として、またキリスト者として、社会や人間のあり方を鋭く見据え、率直に記したのがこの本だった。

時代の象徴ということで言うと、この年創刊の「少女」（光文社）に連載された倉金章介作の「あんみつ姫」は、子どもたちにとって〝明るくて強くて元気な〟まさに〝希望の星〟だった。雑誌「少女」は、意外に大きな意味を持つ存在だった。

**●昭和24年のベストセラー**

| 順位 | 書名（著者／出版社） |
|---|---|
| 1位 | 「この子を残して」（永井隆／講談社） |
| 2位 | 「共産主義批判の常識」（小泉信三／新潮社） |
| 3位 | 「風と共に去りぬ」（M・ミッチェル／三笠書房） |
| 4位 | 「細雪」（谷崎潤一郎／中央公論社） |
| 5位 | 「宮本武蔵」（吉川英治／六興出版社） |
| 6位 | 「哲学ノート」（三木清／岩波書店） |
| 7位 | 「石中先生行状記」（石坂洋次郎／新潮社） |
| 8位 | 「長崎の鐘」（永井隆／日比谷出版社） |
| 9位 | 「平和の発見」（花山信勝／朝日新聞社） |
| 10位 | 「親鸞」（吉川英治／世界社） |

全国出版協会出版科学研究所

日本近代文学館提供

▲「この子を残して」（130円）

▲「細雪」（上巻50円、23年再版は380円）

光文社提供

▲「少女」創刊号（60円）

スターと名場面

# 三船敏郎、美空ひばり、原節子 戦後社会の実態を演じた人々

黒澤明・三船敏郎のコンビが、この年「野良犬」をヒットさせた。三船は悩める刑事役。けっして颯爽とはしていないが、戦後の混乱期をまっすぐに駆け抜ける青年を演じている。盗まれた自分の拳銃による殺人事件で自責の念にかられるが、次の事件を防ぐことに力を尽くせとベテラン刑事（志村喬）に諭され、必死に犯人を追い詰めていくというストーリー。その展開とともに映し出される、闇市やレビュー、後楽園球場の様子などが、当時の実態を浮かび上がらせた。

デビューしてまもない美空ひばりを主役にした「悲しき口笛」（家城巳代治監督）も、戦災孤児や浮浪者をメインに据えて、戦争の影をさりげなく映し出した。

戦争を経て大きく変化した社会と、その現実にとまどう人々の姿が、この年の映画を特徴づけたが、木下恵介監督の「お嬢さん乾杯」もそうした映画だった。

ここでは没落した名家の〝お嬢さん〟（原節子）が主役で、そのお嬢さんと見合いした男、今ならさしずめ〝青年実業家〟と言われる男（佐野周二）とのズレが、まさに戦後社会を象徴していた。

一方この時代をポジティブに描いて人気を博したのが、石坂洋次郎原作の「青い山脈」（今井正監督、出演＝原節子、杉葉子、池部良）で、その明るい主題歌とともに〝古い上衣よさようなら〟がテーマになっていた。

この年ほかには次のような映画が公開された。かっこ内はおもな出演者。「晩春」（原節子、笠智衆）「破れ太鼓」（阪東妻三郎）「大いなる幻影」（ジャン・ギャバン）

黒澤プロ　東宝提供

▲うだるような暑さの中で物語が展開する「野良犬」で、若い刑事を演じる三船敏郎（中央左）とベテラン刑事役の志村喬（右）。

▼「青い山脈」で明るい時代の到来を感じさせた杉葉子（右）と池部良（左）。

東宝提供

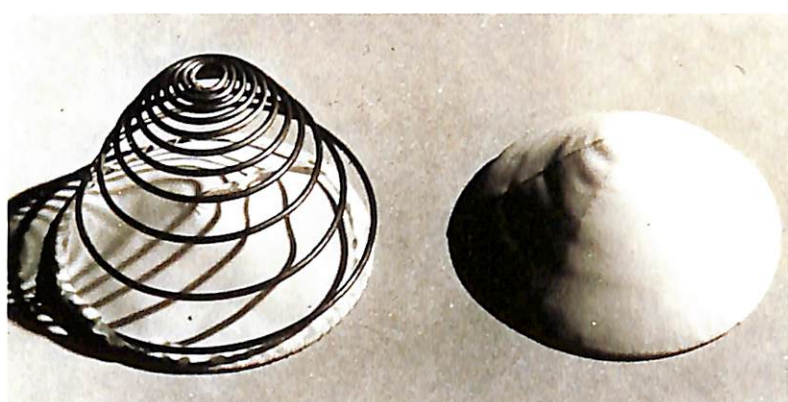
松竹提供

▲「お嬢さん乾杯」から、自動車を扱う青年実業家役の佐野周二（右）と、没落した名家のお嬢さん役の原節子（左）。



モノ語り'49

# 〝美しさ〟への憧れと、技術復興が生活にもたらした「ブラ・パッド」「パンパウダー」「四球ポータブルラジオ」

▲木製ミニチュア玩具が流行した　この頃さかんに売り出されていたブリキの玩具は、けっして安いものではなかった。したがって現実には、身近なおとなや子どもたち自身が作るものが、玩具としては主流だった。ナイフを使って木を削ったり、針金を曲げたり、いろいろな工夫がほどこされた。写真のような船は、その代表的なもので、これは玩具店で販売された。
日本玩具資料館蔵

▲バストを強調する時代になる　戦後、服装が本格的に洋風になるにしたがって、たとえば、バストを美しく目立たせるという感覚が生まれてきた。和江商事（現・ワコール）の「ブラ・パッド」は、そんな時代背景から生まれた。円錐状に巻いた金属のコイルの上に布をかぶせた、饅頭のようなもの。7月に発売され、予想以上によく売れた。ただ、つけているうちにずれてしまうので、パッドを安定させる必要が生じた。これがブラジャー開発へとつながってゆくのである。350円。

▲携帯ラジオの性能がよくなった　戦後の技術復興は、真空管をはじめ、ラジオを構成する部品の小型化をも可能にした。ここから生まれたのが白砂電機の「4球ポータブルラジオ」である。受信感度もよく、ダイナミックスピーカーを使っているため、音質もよかった。真空管用とアンプ用の2種類の電池で、連続2時間の聴取ができた。　NHK放送博物館蔵

▲肌の美容意識を変えた化粧品　ピカソ美化学研究所が開発した「ピカソパンパウダー」は、天然オイルで粉白粉の微粒子を1粒ずつコーティングしたもの。成分的には白粉に近かったが、保湿性に富み、四季を通して外気から肌を守るという点と持ちのよさをうたった。それまで、肌の色を調節することが主眼だったベースメイクに、現在のファンデーションに通じる意識をもたらした化粧品である。28グラム入り300円だった。

▲お年玉つき郵便はがきの登場　12月1日、初の「お年玉つき郵便はがき」が売り出された。この時発行されたのは、2円の通常はがき（写真の青のもの）3000万枚と、寄附金1円をつけたもの（赤色）1億5000万枚だった。戦後混乱期になんとか郵便利用を活発にしようと出てきたアイディアが、この年賀用の籤つきはがきだった。ちなみに、籤の景品は特等がミシン、1等が純毛洋服地。1円の寄附金は社会福祉事業へと配分された。
逓信総合博物館提供

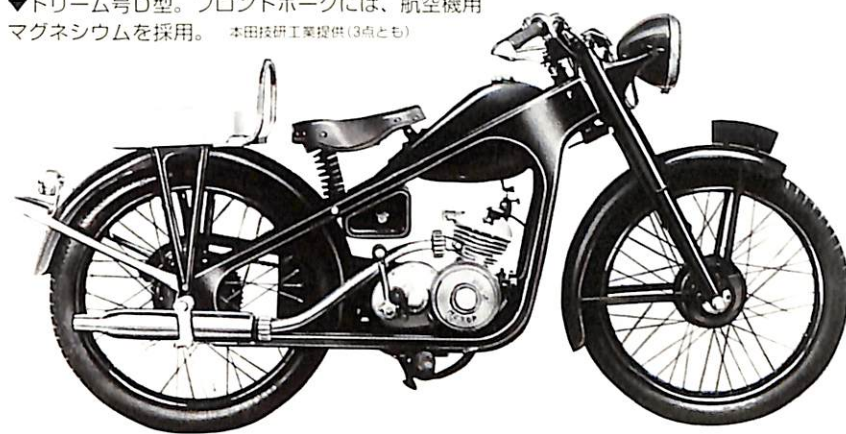
◀冷蔵庫が一般的になり始めた　家庭における食料の短期的な備蓄は、冷蔵庫によって可能になったが、この年あたりから、氷を冷蔵材にした木製冷蔵庫が普及した。冷蔵庫の上部に氷を入れるスペースがあり、これで庫内を冷やした。氷2貫目でまる1日冷やせるというのが標準的。氷は主として、冬は木炭などエネルギー源を扱う店で売っていたが、大きな氷をリヤカーに載せ、注文主の近くで切り分けて配達するのが一般的だった。
埼玉県平和資料館提供

◀哺乳器にもアメリカ式　母乳の出にくい母親などのための哺乳器は、瓶の口にゴム製の乳首をつけただけのものだったが、同孚貿易（現・ピジョン）は、日本で初めてキャップに乳首を取り付けた哺乳器を開発、販売した。すでにアメリカで普及していたタイプで、より清潔で便利なものだったが、価格が従来型の約10倍の120円前後と高かった。

人物クローズアップ

# 本田宗一郎（四二）

## 「夢」と名づけたオートバイ！世界のホンダへの飛翔始まる

▼ドリーム号D型。フロントホークには、航空機用マグネシウムを採用。　本田技研工業提供（3点とも）

昭和二四年八月、本田宗一郎（四二）率いる本田技研工業は、日本初の本格的オートバイとなったドリーム号D型を完成した。前年の九月、宗一郎が静岡県浜松市に資本金一〇〇万円で会社を創立してから、まだ一年もたっていなかった。プレス加工の三角フレームに、二サイクル九八ccのD型エンジンを搭載。運転しやすく、見た目も美しいこのオートバイに、宗一郎は夢を託して、文字どおり「ドリーム号」と名づけたのである。

ドリーム号D型は翌二五年から発売されたが、売れ行きはよくなかった。ドリーム号を一躍有名にしたのは、二六年に発売されたE型である。河島喜好（現・本田技研工業最高顧問）設計のE型は、四サイクル一四六ccのエンジンだった。二五年七月、その試作車による箱根越えが試みられた。試作車が一気に箱根の旧街道を駆け上がると、運転した河島、社長の宗一郎、それに常務の藤沢武夫は、降りしきる雨の中、抱き合って声も立てずに泣いたという。日本のオートバイの夜明けを告げるエピソードである。

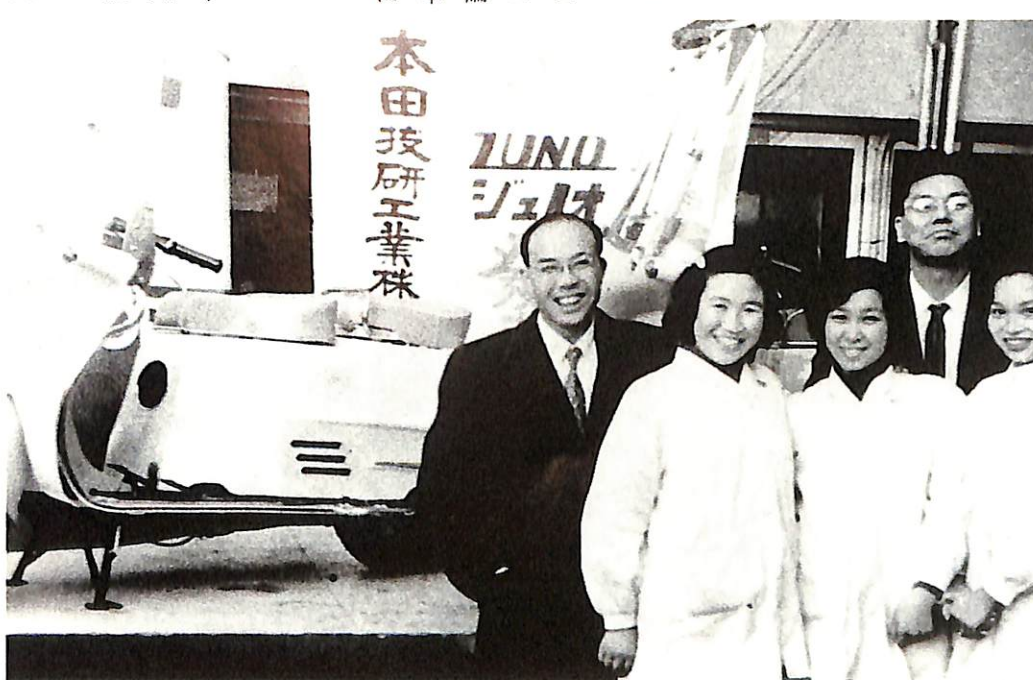
本田宗一郎は、明治三九年一一月一七日、静岡県磐田郡光明村山東（現・天竜市）生まれ。彼は、学校に上がる前から、機械いじりに異常なほどの興味を持つ子だった。有名な話がある。尋常小学校二年の時、浜松の練兵場で航空ショーが開かれた。もう矢もたてもたまらず、二〇キロの道を自転車の三角乗りで駆け、木に登って見物した。同じ年、初めて彼は自動車を見た。山道を登っていくT型フォードを追いかけながら、ガソリンのにおいを心ゆくまで堪能した。

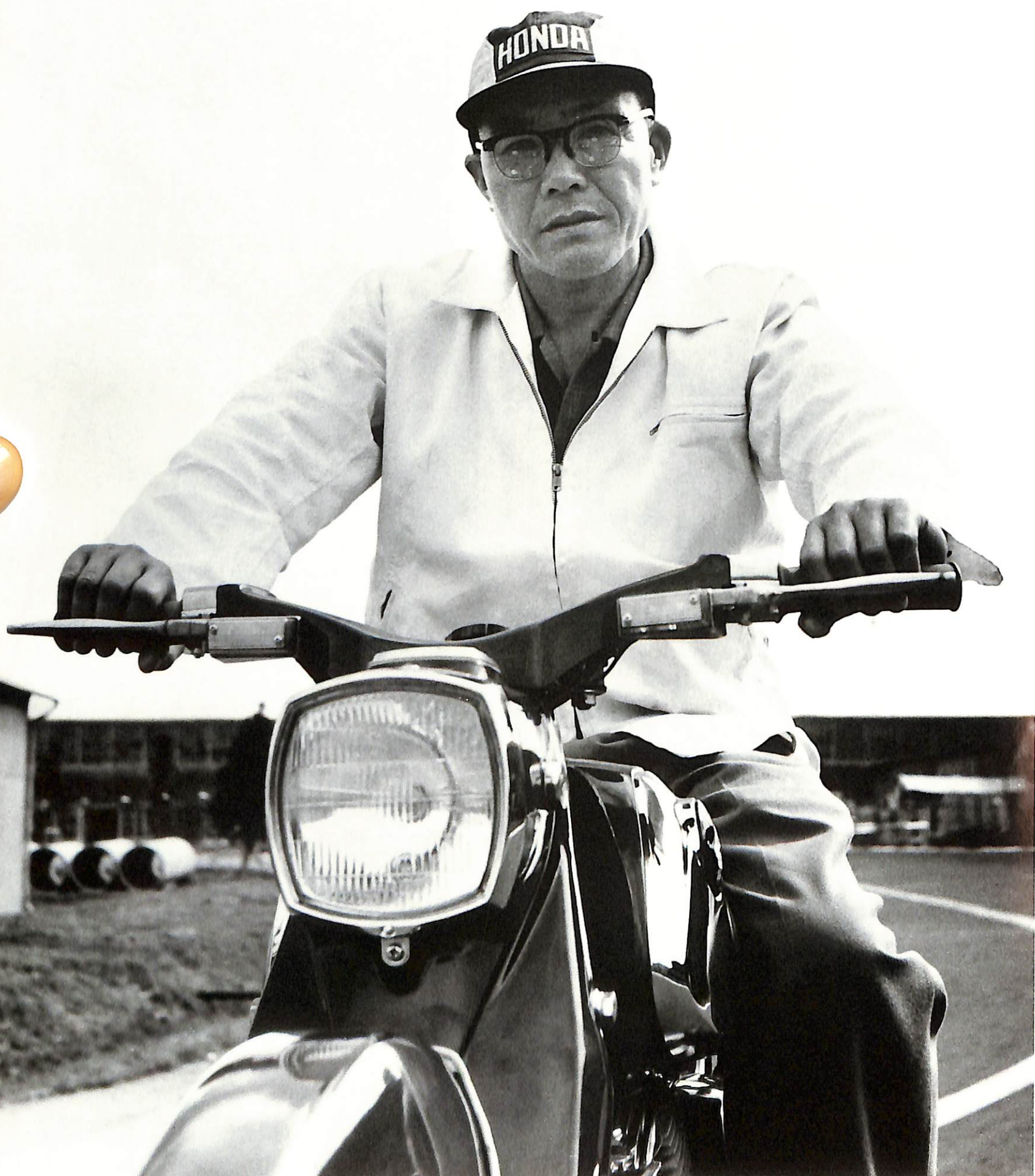
大正一一年、宗一郎は東京の自動車修理会社、アート商会に丁稚奉公に入る。めきめきと腕をあげ、昭和三年四月に独立。浜松に、実質的には宗一郎の会社であるアート商会浜松支店を創業した。一二年、このアート商会を発展的に解消、ピストンリングの製造会社、東海精機重工業を設立。

ここまでは、宗一郎の戦前の事跡である。本田技研工業の設立は、宗一郎にとって四度目の創業だった。以降、同社の発展は、戦後における日本の経済発展の歴史でもあったが、ひとつ、本田技研工業にはほかと大きく異なるものがあった。本田宗一郎という創業者の個性である。経営評論家の梶原一明氏は、本田宗一郎という人物について、こう述べる。

「まず、その明るさ。あの人がいるだけで、まわりがパッと明るくなります。そして、人に対する徹底した心配り。口が悪いようでいて、その実、言葉は実に温かい。そうした、強烈な人間的魅力がありました。あの人を嫌いだという人を、私は一人も知りません」

宗一郎が、共同経営者ともいうべき藤沢武夫と、同時に第一線を退いたのは昭和四八年のことだった。最高顧問という肩書き以外は会社とのかかわりのいっさいない、宗一郎らしい引退だった。

それから一八年、本田宗一郎は平成三年八月五日、突然八四年の生涯を終える。家族だけの密葬だった。俺の葬儀はやっちゃいけない、というのが、宗一郎のきつい命令だったという。



▲昭和29年、スクーター「ジュノオ（女神）」号を発売。デザインが評判となるが売れなかった。右側が藤沢武夫。





▲昭和32年、「ドリームC70」に乗る本田宗一郎。町工場から出発し、一代で全世界に「ホンダ」の名を広めた彼の口癖は、「失敗を恐れるな」だった。

決定的瞬間

# 国共内戦で陥落寸前の上海！市民を処刑する国民党兵士を見つめる不信と絶望の「目」

一九四九年五月、上海の街は異様な緊張の中にあった。三年におよぶ中国共産党と蔣介石（六一）の指導する国民党との全面的な内戦が大詰めを迎えていた。

共産党の軍隊と蔣介石の軍隊は「粟と小銃」対「飛行機と戦車」の戦いと比喩され、その兵力は一九四六年夏の開戦当時、一三〇万対四三〇万というものであった。誰の目にも戦いは蔣介石が有利と見えた。ところが、農村部に浸透し、都市を包囲した毛沢東（五五）の指揮する人民解放軍は、一九四八年秋に東北部で圧倒的な勝利をおさめ、一九四九年四月には揚子江を渡河して、ついに上海や重慶など一部の都市に国民党軍を追いつめていた。全体の戦局から言えば、国民党軍の崩壊は目前の状況にあった。

——五月一六日。上海の街の路上で、二人の共産党員と目される青年が、警官によって射殺された。

彼らは両手を後ろ手に縛られ卒塔婆のようなものを背負わされている。射殺の瞬間の凍てついた表情。後方の路上に横たわる青年の頭からは血が流れ出ている。制服に身を固めた国民党兵士の一群が、平然と眺めているのも不気味だが、この写真の恐さは、国民党兵士の後ろの家屋の中から、一般市民がこの光景を見つめている、その〝目〟である。

国民党軍の腐敗と無策。資本家たちの買い占め。信じられないほどの物価上昇で、市民は給料日に紙幣を天秤棒で持ち帰るありさまだった。

このため蔣経国（四〇＝蔣介石の長男）は米ドルを裏づけとした金元を発行し、従来の元と交換する一方で、金や銀を強制的に買い上げて物価の鎮静をはかった。しかし、当初一ドル＝四元の価値を持つはずであった金元は過剰発行のためたちまち価値を失い、一九四九年五月には一ドルが一〇〇〇万元にまで値を下げた。これはペテンに近いものであった。そして、食糧不足は路上に落ちているわずかな穀物を拾い集める市民の姿や、貧民街での餓死者を日常化させていた。

このような絶望的な状況のすべてを、共産党員や裏切りものの工作によるものである、と国民党は主張したが、市民の目はそれを信じていない。上海はすでに病んでいたのである。

蔣経国は、杭州湾沖の舟山群島にあった空軍基地から、包囲された上海を督戦のため五月一五日に飛行機で訪れ、一六日の早朝に離れている。そして二五日に再び上海を訪れようとするが、飛行場が砲撃を受けたため途中から引き返し、台湾に向かわざるをえなかった。

二日後の五月二七日、人民解放軍は上海に入ると、一般の市民に迷惑をかけぬよう、兵士たちは路上で寝泊まりし、まず第一に物価の安定策に取り組んだ。

アメリカの通信社UP（後のUPI）特派員ウォーレン・リーが撮ったこの一枚の写真は、内戦による上海の崩壊と再生のはざまに流れた、無惨な血をみごとに映し出している。

▲1949年5月16日、上海路上での"処刑"の瞬間。この頃、上海では、多くの市民が栄養失調による疾病にたおれ、毎朝巡回するトラックが前夜の死体を収容してまわる光景が見られた。 ウォーレン・リー CORBIS-BETTMANN PPS

美の出会い

# 「平和への祈り」を設計！広島平和記念公園コンペで丹下健三の戦後第一作入選

昭和二四年五月、広島平和記念都市建設法案が衆参両院で可決された。広島は世界で初めて原子爆弾が投下された都市である。この市を恒久平和を願う中心都市として位置づけ、復興させることを国会は全会一致で承認。広島市民の支持を得て、同法は八月六日に公布された。

「戦争が終わった翌年から、広島市は復興審議会を発足させて、国や県と協議しながら、広島をどのように復興させていくかの検討を始め、平和都市建設のための計画を進めました。その中には丹下健三氏らによる土地利用計画なども含まれていましたが、市民はまだそれどころの状況ではありませんでした」と平和記念資料館職員の叶真幹氏は語る。

この復興計画には、当初から気鋭の建築家・丹下健三（三五）とその研究室のメンバーが参画していた。広島市が記念公園にしようとしていた一角には「原爆ドーム」と呼ばれる旧産業奨励館の焼け崩れた残骸が残っている。この保存について市は、同年一〇月にアンケート調査を行った。

「原爆の悲劇を忘れないためにドームを残すべきだという人が六二％、無残な残骸など見たくもないという人が三五％いました」と叶氏は、当時の市民の複雑な気持ちを紹介してくれた。

法案が国会を通過すると同時に、復興計画のうちの平和記念公園と記念館の競技設計が行われ、丹下グループの設計案が一等で入選した。いわゆる〝広島計画〟である。この設計では基本的な施設として、平和会館（本館、陳列館、公会堂からなる）、広場、祈りの場所、原爆の遺跡が配置されており、記念陳列館の列柱廊を通って行くと、二万人が入ることのできる広場に出る。その先には平和の鐘を吊るした大アーチがそびえ、アーチの直下には地下に埋められた慰霊碑を設置するという構想である。

「戦争により住宅を失った人々がまだ多くおり、復興も遅れている中で、平和施設・記念碑など急いで建設するべきものなのか」と丹下は自問しながら、「広島が世界にたいしてもっている特殊な意義を考えるとき、この平和のための施設の建設は、住居の再建におとらぬ重要性をもっている」（『現実と創造』美術出版社刊）と考えて設計に取り組んだ。

〝広島計画〟の推進者だった広島市長・浜井信三（四四）は「これが完成するまでには、何年もかかるだろう。しかし完成されたときには、それは過去の記憶を守るものとして、世界がふたたび血迷った野望をもち、戦争手段に訴えることのないよう役立つであろう」と述べている。

この設計の中で、中心的な位置を占めている陳列館（現在の平和記念資料館西館）は、丹下の戦後の第一作であり、鉄筋コンクリート造りの最初の建物である。平和公園の巨大な門のように伸びやかに設計された陳列館は、伊勢神宮や正倉院を発想源とする鳥籠構造で、昭和三〇年の原爆被災一〇周年記念を前に完成する。

しかし慰霊碑は難航した。丹下は慰霊碑の制作を、来日中の彫刻家イサム・ノグチに依頼する。浜井市長もこれを強く支持。ノグチも「日本人の父とアメリカ人の母の子として生まれた自分にふさわしい仕事」と思って精魂こめて制作にとりかかった。しかし平和記念都市専門委員会は、「慰霊碑だけは日本人の手で」と強く主張しこれを拒否。ノグチの会心の作は日の目を見ずに、結局、慰霊碑は丹下みずから設計することになった。

「平和記念公園は、その後ずっと平和を願う多くの人が集まり、式典がスムーズに行われる広場として機能しています。資料館には、今では年間一五〇万人が訪れ、世界へ向けて平和のメッセージを発信し続けています」と叶氏は言う。

▲手前中央が原爆死没者慰霊碑、後方に平和記念資料館。原爆投下10周年の昭和30年8月6日、広場に集まった5万人もの人々を見た丹下は、「この一連の作品は、これらすべての人々に引き渡された」という感慨を持った。 石元泰博

▲戦後建築界をリードした丹下健三。 土門拳

▲被爆都市・広島の遺品を陳列する平和記念資料館。 石元泰博

# 湯島

## 「旧岩崎邸」に塗りこめられた米キャノン機関の〝謀略伝説〟

山本徹美

昭和二四年、下山事件、三鷹事件、松川事件とたてつづけに公安事件が発生。それらすべてを「キャノン機関」による謀略的陰謀と指摘したのが作家の鹿地亘

▲旧岩崎家住宅。昭和36年に洋館と撞球室が重要文化財に指定され、平成6年から文化庁の所管となる。　但馬一憲

（本名・瀬口貢、昭和五七年没）である。鹿地は二六年一一月末、キャノン機関（正式名称・Z機関、GHQのG2に所属）によって拉致されるのだが、最初に監禁されたのが「本郷ハウス」こと岩崎家住宅の洋館だった。

その家は岩崎久彌（三菱の創設者・岩崎彌太郎の長男）が明治二九年に建てたもので、鹿鳴館を手がけた英国人建築家コンドルの設計による。地下室つきの木造二階建て、建築面積は五三一・五平方メートル。昭和二二年占領軍に接収され、Z機関本部が置かれた。指揮官のジャック・Y・キャノン少佐（昭和五六年没）はガンマニアで、射撃が趣味。

同機関諜報員だったという延禎は著書『キャノン機関からの証言』で、「初対面の人物がやってくると、キャノンの部屋のドアを開けてなかに入ったとたん、ズドン！　と客の頭上に弾丸がとんでくる」と書いている。

### 「伝説」の実体

その部屋が現在どうなっているのか

旧岩崎家住宅を訪ねた　現在、建物の所管は文化庁で、管理を担当している藤井晴夫氏（六五）に案内してもらう。前出の延によるとキャノンの個室は二階東側中央。藤井氏がドアの上方、天井をさし、ほほえんだ。

「あの補修した穴が弾痕だと言われているんです。本当かどうかは不明ですが」

穴は四ヵ所で、その南隣にある部屋のドア上方天井部分にも同様に四ヵ所ある。

鹿地の監禁されていた部屋は二階西側にある一室である。モスグリーンのペンキ一色に塗られた壁のいたるところにヒビが入り、今にも崩れ落ちそうで、私はなんとなく寒気を催した。藤井氏が残念そうにつぶやく。

▲昭和27年、「本郷ハウス」が閉鎖された頃の旧岩崎邸。　朝日新聞社

「本来、金唐紙という壁紙が貼ってあった。あまりに高価で技術者も少なく、もう、復元は不可能と言われています」

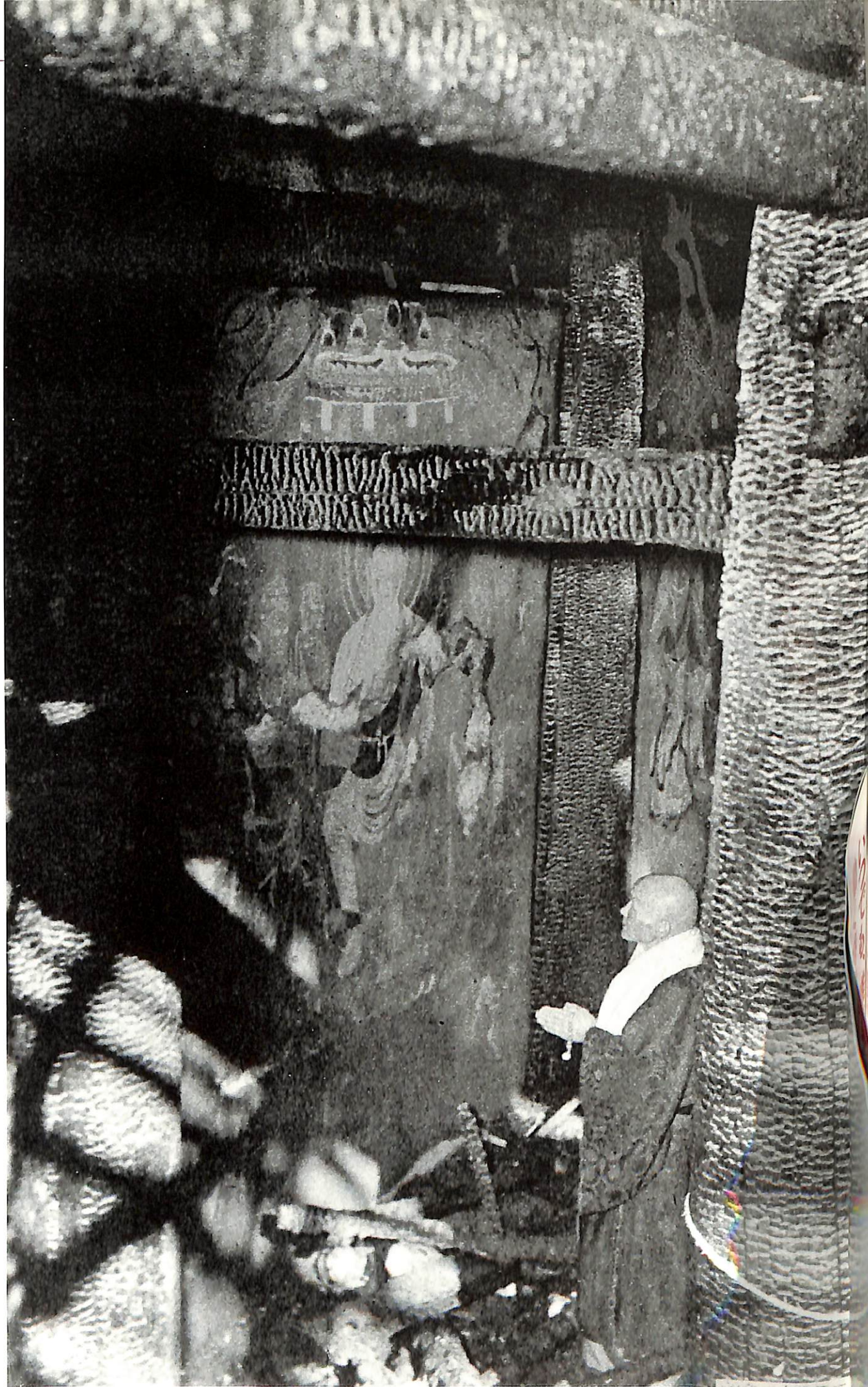
地下室へ下りてみた。鹿地は、「水牢に使っていた小さい暗室」があり、「妖気あたりに立ちこめ」「黒ぐろと闇をのぞかせる迷宮」（『謀略の告発』）と表現しているが、水牢らしきものは存在せず、採光用の窓と空間があって、明るい。鹿地は監禁の恐怖からそう感じたのか、それとも読者の反米意識をあおるための誇張か。この洋館全体を彼は、「ポーの『アッシャー家の末裔』にでも出てきそうな幽霊屋敷」と称しているが、どうであろう　私にはそんなおどろおどろしさよりも、むしろ米南部の大らかさが感じられた。キャノン機関自体、謀略工作や陰謀を任務としていたのではなく、延が言う「敵のスパイを防ぐ役割」と「二重スパイの養成機関」でしかなかったのではないか。

いずれにせよ、こうした「伝説」が、



# 〝至宝〟法隆寺金堂炎上！

## 世界に誇るべき壁画一二面はなぜ焼失したか

聖徳太子ゆかりの法隆寺金堂が、昭和二四年一月二六日払暁、突如炎上し、国宝の一二面の壁画が焼失した。アジャンタ壁画と並ぶ世界的な仏教美術の傑作だった。戦争とそれに続く混乱による、文化財保護行政の停滞が遠因となった、あまりにも高価な〝代償〟だった。

▲焼けただれた金堂の壁画を前に、合掌する佐伯定胤法隆寺管長。壁画は8世紀初めに描かれた、白鳳美術の粋とも言える傑作だった。　朝日新聞社

## 火元は電気座布団 壁画模写中の失火

昭和二四年一月二六日朝、奈良県斑鳩町に時ならぬサイレンの音が響き渡った。午前七時半を少しまわった頃だった。当時、法隆寺では「昭和の大修理」が行われていたため、毎朝八時には作業開始のサイレンが鳴っていた。しかしこの朝のサイレンはいつもと違い、時間が早く、しかもいつまでたっても鳴り止むことがなかった。人々が家を飛び出すと、お寺の松林脇から黒煙が立ちのぼっているではないか。

「寺中が火事だぁ」「大変だ！ お寺が燃えてるぞー」

斑鳩町の人々は、法隆寺をたんに「お寺」とか「寺中」と呼んでいた。「お寺」と言えば法隆寺のことだったのである。

町内や近隣の町村から消防団の法被を着た団員たちが次々と消防ポンプを引っ張って集まって来た。斑鳩町には手押しポンプしかなかった。

第一発見者は近所の小学生とも、主婦とも言われるがさだかではない。

急を聞き、約四〇〇人も駆けつけた時、法隆寺金堂の扉は固く閉ざされ、内部はすでに火の海となっていた。

▲最も被害の大きかった西6号壁の「阿弥陀浄土図」。阿弥陀像にあいた穴は、消火ホースを突っこむために丸太で打ち抜かれたもの。 朝日新聞社

◀壁画模写中の画家たちが使っていた電気座布団の残骸。模写は昭和15年に着手され、戦争中も続けられていた。
朝日新聞社

▼焼損前の「阿弥陀浄土図」。左右に観音菩薩、勢至菩薩が描かれている。 便利堂提供

運命の時、八一歳の法隆寺管長・佐伯定胤は朝の勤行と食事をすませ、本坊で弟子たちと話をしていた。そこに火災を知り、白衣のまま、這うように中門前の石段を上がった。手には数珠を掛け、合掌し経文を唱えていた。だがその時には、金堂の仮屋根は燃え落ち、もうもうと黒煙を上げ、飛び火が隣接する五重塔の屋根を延焼させる勢いだった。

法隆寺累代大工棟梁西岡家の長男として生まれ、解体修理にたずさわっていた当時四〇歳の西岡常一（後に文化功労者）はこう回想している。

「五重塔の足場からも炎がチロチロ見えていたし、このままでは伽藍全体が危ないと思った。金堂はもう助からないだろうが、ほかの建物はなんとか守ってほしいと祈るような気持ちだった」（遠山彰『法隆寺金堂炎上』）

午前八時すぎ、金堂が開け放たれた。

「そのとたん、炎が激しく噴き出しました。身動きもせず立っていた定胤管長が走り出し、猛火の中に飛びこもうとしました。そばにいた人が抱きついて止めました。管長は、金堂の南の回廊脇に積んであった古材に端座して経文を唱え続けていました。管長の顔はススと涙で汚れていました。火が鎮まってしばらくして、西岡さんの背におぶさって本坊へ戻っていかれました」

地元の浄土真宗の寺の住職で、関西芸術短大教授の太田信隆は回想する。太田は当時一七歳の高校生だった。

出火から一時間以上たった八時半頃、金堂は鎮火する。しかし一二〇〇年前さながらの極彩色の壁画は永久に失われてしまったのである。国宝炎上は国民に大きなショックを与えた。マスコミもまた、動転していた。「朝日新聞」号外は「法隆寺全焼」と伝えている。金堂だけでなく、法隆寺全体が燃えてしまったと誤報したのである。ショックがいかに大きかったかを示している。

原因は当初漏電と伝えられたが、その後の調査で、当時壁画を模写中の画家が使用していた電気座布団のスイッチの切り忘れ説が有力となっている。

## 戦争の後遺症から文化財行政後手に

法隆寺金堂に続き、この年二月二七日、愛媛県松山市の松山城筒井門などが放火により焼失する。さらに六月五日には北海道の松前城天守閣も全焼した。いずれも国宝に指定されていた歴史的建造物だった。

こうした至宝の損傷の遠因は太平洋戦争にあった。戦争中に文化財保護行政は「不要不急」とされ、人員も予算も大幅に削減されていたからである。のみならず梵鐘、刀剣なども戦時に供出させられ、建造物、遺跡なども放置されて、荒れ放題となっていた。金堂焼失を受け、マスコミ各紙は文化財保護のキャンペーンを開始した。それらによれば、「平泉の中尊寺金色堂は、一二年から雨漏りが始まったが、文部省に申請した修理費七〇万円のうち、届けられたのは、わずか一万五〇〇〇円にすぎなかった」「大分県の富貴寺は、戦時中の空襲の爆風で、建物全体ががたがたとなり、法隆寺に次ぐと言われた壁画も、すっかり色褪せている」「国宝建造物千八百棟（は）このまま放置すればあと四、五年たたぬうちに、三、四割は潰滅する」（「朝日新聞」連載「法隆寺の話」）というありさまだった。

何とも高価な代償を払ったすえに、この国には珍しい議員立法により「文化財保護法」を可決、公布されたのは、翌昭和二五年五月三〇日のことである。

▶法隆寺金堂。七世紀後半の建造になる二重の入母屋造り。昭和二六年国宝指定。二四年の火災の修理は二九年に完成した。

## フォト＋日録で再現する365日

▲7年ぶり、巨人の水原茂帰還（7月20日）昭和17年のリーグ中に応召したが、この日シベリアから帰還。24日、東京・後楽園球場でファンに挨拶のあと三原脩監督（左）から花束を贈られた。翌年監督に就任。

影山光洋

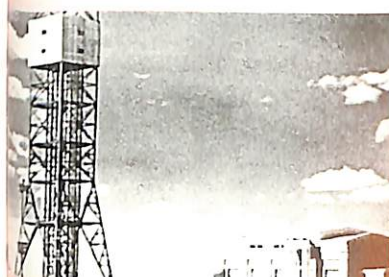
毎日新聞社

▲宝塚歌劇団月組、相撲部屋に宿泊（7月）宿舎難のこの時期、東京・錦糸町の江東劇場で、「暁の歌」「アロハ・オエ」の公演を行っていた35人は、苦肉の策として、地方巡業中で空いていた両国の出羽海部屋を利用した。

▼「青い山脈」封切（7月19日）自由と平等の実現に燃える女性教師と、封建的な町の人々とのやりとりを明るくユーモラスに描いたこの映画は、主題歌とともに一世を風靡。写真は東京・有楽町のスバル座前で前売り券を求める人々。

毎日新聞社

▲城ケ島に北原白秋の詩碑完成（7月10日）三浦半島の三崎に滞在中に作った「城ケ島の雨」の揮毫の一部を使用した碑の除幕式が、灯台80周年記念の祭りとともに催された。

日本電波ニュース

▲ソ連、原爆実験に成功（8月29日）中央アジアのカザフスタン砂漠で行われた。9月23日米大統領トルーマンがこの事実を公表し、ソ連は2日後、原爆保有を公式に認めた。写真はセミパラチンスク核実験場。

朝日新聞社

### 昭和24年7月

1（金）●GHQ、大学教授五〇人に米奨学制度での一年間留学を許可。
●政府、国鉄労組に九万五千余人の整理通告。
2（土）●「高砂丸」引揚げ者二〇四〇人、共産党に入党。
3（日）●上野動物園、米から寄贈のライオンを公開。
4（月）●警視庁、闇金融「光クラブ」を摘発。
●マ元帥、「日本は共産主義進出阻止の防壁」と声明。
5（火）●東芝、四五八一人の人員整理を発表。
6（水）●東京・足立区で国鉄総裁・下山定則の轢死体発見（下山事件）。
7（木）●大阪労基局、日本野球連盟に審判への減給処分は労働基準法違反と警告。
8（金）●東京都、狂犬病流行で犬猫の放し飼いを禁止。
9（土）●朝日新聞本社新館増築。六階に「ニューヨーク・タイムズ」など外国通信社の事務所設置。
10（日）●蔣介石、フィリピン訪問。
11（月）●東京都、都内九四の露店商組合に解散指示。
12（火）●国鉄吹田操車場で駅長に面会断られた職員八〇人が列車出発を妨害（吹田操車場事件）。
13（水）●ローマ法王、共産主義者破門の教令を出す。
14（木）●東北・北海道で小児麻痺流行、二八三人に。
15（金）●国鉄三鷹駅で無人電車が暴走。六人死亡（三鷹事件。17日分会幹部二人を逮捕）。
16（土）●アメリカン・ユース・ホステル一行三二人が世界一周の途上来日。
17（日）●フェイ台風の暴風雨で南九州の通信線寸断。
18（月）●国鉄、鈴木市蔵ら中闘左派委員一四人を解雇。
19（火）●民間情報教育局（CIE）教育顧問イールズ、共産主義教授を追放せよと演説。
●今井正監督、原節子・杉葉子主演「青い山脈」封切。主題歌は藤山一郎・奈良光枝。
20（水）●巨人の水原茂、シベリアから帰還。
21（木）●岩国沖で戦艦「陸奥」から遺骨引揚げ開始。
22（金）●GHQ、東京中心に極東空軍演習実施と発表。
23（土）●東京・両国で第二回全国花火コンクール開催。
24（日）●新潟県に釜山からの密航者七、八十人上陸。
25（月）●国税庁、試作の洋酒五種を明治屋で売り出す。
26（火）●東芝労連、三工場で第一次ストに突入。
27（水）●英で初のジェット旅客機「コメット」初飛行。
28（木）●全官公八組合、行政整理に対し闘争宣言。
29（金）●不忍池埋め立て、球場建設案が都議会に上程。
30（土）●国語審、中国地名・人名のかな書きを建議。
31（日）●NHKラジオ受信契約数が八〇〇万件を突破。



### 証言・あの日この日

## 北　杜夫（21）

4月2日（土）〈親父と銀座へ行く。青龍展を見る。親父、ロンドン乞食の如き黒いオーバー、地下足袋。親父、指さす、ウナギ。安くならん。ヨーカンのガラス戸をのぞきこむ。チャアシュウメンとシウマイを食べる。五百円。地下鉄で別れる〉（北杜夫『或る青春の日記』）

東北大学医学部に通う若き日の北杜夫は春休みを利用して世田谷の実家に帰省する。親父というのは、もちろん、医師で歌人の斎藤茂吉のことである。茂吉のうなぎ好きは有名だったけれど、「安くならん」せいか、この頃〈ウナギ。あまり食いたくなくなった〉（3月27日）と言う。それに代わるご馳走がチャーシューメンだ。この日記の5日前の父と子の会話の一節。

〈「……うまいよ、とにかく」。とにかくに万感無量の念をこめて、世にも嬉しそうな笑顔〉。（坪内祐三）

宮武東洋／Archie Miyatake

▼モデル住宅、戸山アパート完成（8月10日）鉄筋4階建て。電気・ガス・水道・水洗トイレが完備して、部屋数は8畳と6畳の2間。1ヵ月の家賃は約1200円で、木造の都営住宅の1.7倍だったが応募者が殺到し競争率は20倍以上。写真は完成間近の姿。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲夏の甲子園無欲の優勝、湘南高（8月20日）優勝候補がひしめく中で、初出場の湘南高は、33年ぶり関東に優勝旗をもたらした。7番佐々木信也は後に野球解説者として活躍。写真は藤沢駅前の凱旋風景。

▲古橋広之進、世界新記録（8月16日）ロサンゼルスの全米水上選手権大会で1500メートル自由形（写真）をはじめ4種目で世界新を連発。「フジヤマのトビウオ」と感嘆され、日本中がその活躍に沸きかえった。

▼キティ台風、関東に上陸（8月31日）満潮と重なったため、海岸・河口付近での被害が大きく、東京の床上浸水は10万戸以上。桐生市で渡良瀬川が決壊（写真）。

### 昭和24年8月

1（月）●美空ひばり、コロムビア・レコードと専属契約。デビュー曲「河童ブギウギ」。
●NHK児童番組「歌のおばさん」放送開始。
●王子製紙、苫小牧・十条・本州の三社に分割。
2（火）●農林省、蔓延する新害虫アメリカシロヒトリの処分法を指令。
●閣議、米価審議会の設置を決定。
3（水）●北海道の夕張炭鉱でガス爆発。一四人死傷。
4（木）●吉田首相、タバコ事業の民営化に意欲表明。
5（金）●米国務長官、対極東外交政策五原則を発表。
6（土）●弘前市で弘前大教授夫人殺害（22日容疑者逮捕。冤罪で52年無罪）。
●住民投票による広島平和記念都市建設法公布。
7（日）●坂口安吾、アドルム中毒で錯乱し保護される。
8（月）●東京都交通局と富士重工がリヤエンジンバスを完成し、「フジ号」と命名。
9（火）●吉野の大峰本宮が女人開放し、九人が初登山。
10（水）●東京・新宿に都営戸山アパート一四棟完成。
11（木）●全逓に一万一五〇〇人の人員整理通告。
12（金）●マ元帥、米議会の一時帰国要請に拒否を表明。
13（土）●東京都、全国初の工場公害防止条例を制定。
14（日）●川崎市で火薬庫火災、花火三万二千余個焼く。
15（月）●ジュディス台風、九州上陸。死者一五四人。
16（火）●古橋広之進、全米水上選手権一五〇〇メートル自由形で世界新記録（「フジヤマのトビウオ」）。
17（水）●東北本線金谷川—松川駅間で列車脱線転覆。乗務員三人死亡（松川事件）。
18（木）●NHK、全米水上を戦後初の海外実況中継。
19（金）●神戸基地広報室、占領軍批判ビラ貼った日本人二人を軍事裁判に付すと発表。
20（土）●夏の甲子園で神奈川県の湘南高校優勝。
21（日）●求職難で学生バイトも肉体労働増加と新聞に。
22（月）●厚生省、避妊薬一七種の製造許可を発表。
23（火）●専売公社公募の「タバコ娘」一〇人選考（販売不振の高級タバコ「ピース」を宣伝）。
24（水）●北大西洋条約機構（NATO）発足。
25（木）●物価庁、漢方薬・文具などの価格統制を廃止。
26（金）●シャウプ、税制改革勧告案の概要を発表。
27（土）●持株会社整理委、松竹・東宝に処分決定。
28（日）●共産・労農のぞき国会早期開会野党連盟結成。
29（月）●都の子ども議会、上野動物園の掃除や餌集めをする「ゾウ子ども会」の結成を決議。
30（火）●全国銀行協会、日銀に千円札発行を要望。
31（水）●キティ台風、関東上陸。死者・不明一六〇人。

▼強制解散の日の朝連（9月8日）前年4月、在日朝鮮人学校の閉鎖命令にからんで、兵庫軍政部は初の非常事態を宣言し、1732人を逮捕（神戸事件）。そしてこの日、在日本朝鮮人連盟（朝連）など4団体に解散命令が出された。

海沼勝

毎日新聞社

▲第1回ふぐ調理師試験（9月21日）この年、中毒死亡者の激増により東京都は、学科・実技試験を行い、合格者にふぐ調理師免許を交付することになった。写真は築地魚河岸での実技試験。

共同通信社

◀特急「へいわ号」運行開始（9月15日）東京―大阪間を9時間で結び、10両編成のうち一等車3両が連結され、一等の料金は1万8000円。写真は8日、盛大に行われた試運転。翌年「つばめ号」と改称する。

◀原爆資料陳列室開設（9月25日）原爆被爆4周年を迎えた広島市基町の中央公民館には、原爆資料陳列室が開設され、焼けた瓦や溶けた瓶などが展示された。後、平和記念資料館に移された。

中国新聞社

◀▲岩宿遺跡発掘（9月11日）独学無名の相沢忠洋氏が、群馬県笠懸村岩宿の赤土の中から発見した長さ7センチの槍先形石器（左）がきっかけとなり、杉原荘介明大教授らによる予備調査（上）が行われ、日本に旧石器時代はないとする定説をくつがえした。

## 昭和24年9月

1（木）●京都市、第一回学校復旧宝籤を発売。
●密輸団首領（通称「瀬戸内海のカポネ」）が香川県坂本村で武装警官に包囲され逮捕。
2（金）●日独金融協定、フランクフルトで調印。
3（土）●上野動物園にタイからゾウが到着（花子と命名。25日インドからインディラ到着）。
4（日）●全国初のふぐ調理師試験実施（実技は21日）。
5（月）●東京天文台などが波長一・五㌢の太陽電波受信に成功（世界で四番目）。
6（火）●R・ロッセリーニ監督「戦火のかなた」封切。
7（水）●東京・板橋区で火薬庫爆発。一八〇戸が全半壊。
8（木）●在日朝鮮人四団体、団体等規正令により解散。
9（金）●GHQ、二五年以降の芋類の統制撤廃を許可。
10（土）●日本脳炎が流行し、患者数一一一七人に。
11（日）●相沢忠洋ら、群馬県岩宿遺跡の試掘開始。
●電力制限緩和以来ネオン復活進む、と新聞に。
12（月）●交通公社、六大都市に海外旅行相談所を開設。
13（火）●森脇将光、暴利取締違反容疑で逮捕。
14（水）●警視庁、都内露店六〇〇〇軒の撤廃を決定。
●近鉄がプロ野球への加盟申請（21日毎日新聞、24日大洋漁業、28日広島と申請相次ぐ）。
15（木）●東海道本線に食堂車と特急「へいわ号」復活。
●GHQ、シャウプ勧告の全文を発表。
16（金）●李韓国大統領、在日朝鮮人団体解散を非難。
17（土）●東京都、都職員の人員整理、千百余人に辞令。
18（日）●ポンド下落し、対米ドルレート三割切り下げ。
19（月）●小津安二郎監督・原節子主演「晩春」封切。
20（火）●福井地裁武生支部が全焼（武生事件）。
●東京地裁で日本初の安楽死論争。
21（水）●持株会社整理委、旧財閥に旧商号の使用禁止。
22（木）●閣議、結核治療薬ストレプトマイシンの国内生産要綱を決定。
23（金）●米大統領、ソ連の原爆実験を公表（25日ソ連は二年前からの原爆保有を認める）。
24（土）●九州大、「赤色教授」に辞職を勧告。
25（日）●パン・アメリカン航空の"空飛ぶホテル"「ザン・クロス号」が羽田着。
26（月）●川崎市で初の成人学校開校（以後全国に普及）。
27（火）●大山郁夫、占領軍批判容疑で逮捕（28日釈放）。
28（水）●全国教育長会議、「赤色教員」の追放を決議（各県で教員レッドパージが広まる）。
29（木）●米連邦地裁、アイバ戸栗に反逆罪で有罪判決。
30（金）●荻須高徳「モンマルトル小景」、パリのモナコ展で日本人初の特賞を受賞。



毎日新聞社

▲千代ノ山優勝（10月23日）大阪市福島公園内の仮設会場で行われていた大相撲秋場所は、千秋楽に神風を寄り切った新大関の千代ノ山が13勝2敗で初優勝した。殊勲・敢闘賞は鏡里、技能賞は栃錦に贈られた。

▼ゾウのインディラ贈呈式（10月1日）「ゾウが見たい」という日本の子どもたちの願いにこたえ、インドのネルー首相が15歳のメスゾウに愛娘の名前をつけ、上野動物園にプレゼントした。写真は大にぎわいの文化の日。

▲渋谷で鉄筋ビルの引っ越し作戦（10月26日）駅前広場で交通妨害になっていた元三菱銀行ビルを、鉄製コロに乗せウインチを使って移動させた。1200万円の移築費をかけたが、後の区画整理で取り壊された。右上の坂道が道玄坂。

共同通信社

毎日新聞社

◀▲サンフランシスコ・シールズ来日（10月12日）熱狂的な歓迎をもって迎えられ、全日本軍などと対戦し10勝1敗の成績を残した。本場のプレーのみならず、会場で限定販売された1本50円のコカ・コーラ（左）も魅力だった。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲復活、赤ちゃん審査会（10月23日）日本児童愛護連盟主催による戦後初の審査会が、東京・上野のデパートで開かれ約5000人が参加。長野・静岡などの農家からの参加が目立った。

## 昭和24年10月

1（土）●中華人民共和国、成立。
●東京・丸善に「ヴォーグ」誌が一〇年ぶり入荷。
2（日）●全労連などが反ファッショ平和擁護大会開催。
3（月）●芝浦工専山岳部員六人が谷川岳で遭難死。
4（火）●法隆寺五重塔心柱下の宝器発掘が始まる。
5（水）●日産自動車、組合に二〇〇〇人の整理通告。
6（木）●都道府県職員三万九七〇〇人削減と自治庁。
7（金）●ドイツ民主共和国（東ドイツ）成立。
8（土）●大阪の百貨店に初の男性マネキンと新聞に。
9（日）●プロ野球で巨人優勝。本塁打王は藤村富美男。
10（月）●衆院特別委で、引揚げ者の就職は半数と政府が答弁。
11（火）●GHQ、帝国石油が秋田県八橋油田西方に石油含有の可能性ある岩層を発見と発表。
12（水）●戦後初めての米・プロ野球3A球団「サンフランシスコ・シールズ」が来日。
13（木）●優生保護法で強制断種は許容と法務府見解。
14（金）●通産省、サージなど梳毛製品の販売を自由化。
15（土）●乗鞍岳の東京天文台コロナ観測所が観測開始。
16（日）●京マチ子・宇野重吉主演「痴人の愛」封切。
17（月）●一二都府県でユニセフ寄贈のミルク給食開始。
●南原繁東大学長、「赤い教授」追放問題で「学問の自由をあくまで尊重」と談話発表。
18（火）●閣議、皇居外苑・京都御苑の公園化を決定。
●GHQ、二〇年九月以来の放送番組の検閲を廃止（24日新聞通信の事後検閲も廃止）。
19（水）●GHQ、日本人戦犯の軍事裁判完了と発表。死刑七百人余、終身刑二五〇〇人。
●政府、全国五八の朝鮮人学校の閉鎖指令。
20（木）●戦没学生遺稿集『きけわだつみのこえ』刊行。
●東京都公安条例公布施行。デモが届け出制に。
21（金）●田中絹代、戦後初の芸能親善使節として渡米。
22（土）●相撲協会、本場所休場中、日米野球観戦の横綱前田山を出場停止（23日前田山引退）。
23（日）●上野松坂屋で戦後初の赤ちゃん審査会開催。
24（月）●美空ひばり初出演「悲しき口笛」封切。
25（火）●GHQ、自動車の生産販売制限を全面解除。
26（水）●松川事件で六人起訴（冤罪で38年全員無罪）。
27（木）●国連アジア極東経済委、日本に貿易拡張要請。
28（金）●人口問題審議会、産児制限の強力推進を答申。
29（土）●都内小・中学校で親の失業による長欠者が前年より倍増の四四〇〇人と判明。
30（日）●電産、全労連脱退と賃金調停案受諾を決議。
31（月）●日・西独通商協定調印。総額二〇〇〇万㌦。

日録 **20世紀1949**

# 11~12月

熊本日日新聞社

◀**修学旅行の学童溺死**（11月5日）山間部にある熊本県津森小学校の修学旅行中、定員25人に62人の乗った遊覧船が日奈久町の沖合で転覆。海に不慣れな学童22人と教師ら二人が溺死。写真は8日に行われた葬儀。

共同通信社

◀**対面交通開始**（11月1日）交通量の増加にともなう新道路交通取締法により、明治14年以来の左側通行に代わって「人は右、車は左」の対面交通が実施された。初日、東京・南千住で警官が「人は右」を指導。

▼**籤つき電球、売り出し**（11月）戦後しばらく貴重品だった電球も、メーカーの立ち直りで生産過剰（写真）。さらに、アメリカが蛍光灯時代に入り輸出も不振。あるメーカーが籤つきで大売り出しをするほど。

朝日新聞社

▼**光クラブ倒産**（11月24日）東大学生、26歳の山崎晃嗣社長（写真）は、高配当をうたって資金を集め高利で貸す闇金融で脚光をあびていたが、警察の摘発を受けて以来、資金ぐりに行き詰まり、青酸カリ自殺した。

毎日新聞社

▶**新千円札、印刷公開**（11月26日）翌年1月7日の発行をめざし、政府の4工場で印刷は急ピッチ。偽造防止にすかしが入り、図柄は表に聖徳太子、裏に法隆寺の夢殿を配したもので戦後3代目の千円札。写真は印刷庁の滝野川工場で。

毎日新聞社

▶**プロ野球、2リーグに分裂**（11月26日）日本野球連盟は、この日のオーナー会議で、連盟の解散と7球団の新加入を決め、セントラルリーグとパシフィックリーグの2リーグ制となった。セは松竹、中日、巨人、阪神など8チーム、パは毎日、南海、大映、東急など7チーム。

毎日新聞社

## 昭和24年11月

1（火）●法改正で「人は右、車は左」の対面交通実施。
●俳優座演劇研究所が設立され俳優養成所開校。
2（水）●門上チエ子、東京地検で初の女性検事に就任。
3（木）●湯川秀樹にノーベル物理学賞授与と発表。
●田中英光、太宰治の墓前で睡眠薬自殺。
●神戸新聞社、「夕刊神戸」発行（初の一社朝夕刊発行。26日読売・毎日、30日朝日発行）。
4（金）●GHQ、各界代表一五〇人の渡米計画を発表。
5（土）●熊本県沖で遊覧船転覆。学童ら二四人死亡。
●食糧庁、味噌・醤油の自由クーポン制を実施。
6（日）●未帰還の夫の失踪宣告申し立て増加と新聞に。
●東京・浅草で岡本綺堂記念碑「半七塚」除幕。
7（月）●経費米国負担の留学に女子受験許可と発表。
8（火）●大阪市でトラック巡業の「街頭文楽」開催。
9（水）●政府、「憲法上は自衛戦争も放棄」と答弁。
10（木）●米原子力委員会、放射性アイソトープの対日輸出許可と発表。
11（金）●二三年春以来四億円の貯金を集めた全国子供銀行の表彰式挙行。
12（土）●電気通信省主催で初の全国電話競技大会。
13（日）●電産、会社側の中労委調停案拒否に停電ストなど実力行使を指令（20日奨励金支給で妥結）。
14（月）●『結婚白書』発表。二二年は九三万四一七〇組。
15（火）●周恩来、国連に国府の代表権取り消しを要求。
16（水）●北海道南部の暴風雪のため漁船の遭難続出。
17（木）●原動機つき三輪車が輸出検査に合格し、フィリピンへ三台輸出。
18（金）●山形市の小学校で四〇〇人が流行性結膜炎にかかり強制休校（校医は引責辞任）。
19（土）●通産省『技術白書』、電機・造船などで米国と一〇年の開き、他産業は二、三十年の遅れと。
20（日）●日劇ダンシングチームが一〇年ぶり採用試験。
21（月）●犯罪青少年の半数が覚醒剤中毒と警視庁通達。
22（火）●岡山県大崎駅で主食摘発の報復に、かつぎ屋六〇人が公安官に集団暴行。
23（水）●国鉄の一億円荷抜き事件で車掌ら四〇人留置。
24（木）●闇金融「光クラブ」社長の東大生・山崎晃嗣、青酸カリで自殺。
25（金）●一〇年ぶりに真珠の国内販売が許可される。
26（土）●プロ野球、セ・パ両リーグに分裂。
27（日）●米軍政府任命の沖縄議会が初会合開く。
28（月）●国際自由労働組合連合、ロンドンで結成。
29（火）●柴田南雄らに第一回毎日音楽賞。
30（水）●対共産圏輸出統制委員会（ココム）設立。



影山光洋

▲**子ども向け雑誌が並ぶ本屋**（12月）敗戦直後、わずか7誌しかなかった子ども向け雑誌が、22年には121誌と急増していた。「冒険王」「おもしろブック」「少女ロマンス」などが並ぶ。

共同通信社

▲**第1回ガリオア留学生選抜試験**（12月1日）アメリカ政府資金による留学生（後にフルブライト留学生）の試験が全国7会場で行われ、6491人が英語の筆記試験を受験。女性27人を含む142人が合格し、翌年、軍用機で渡米した。

▶**マッカーサー、戦犯に特赦令**（12月25日）巣鴨拘置所に服役中の終身刑以下の戦犯に、減刑の特赦を与えると発表。4年以下の刑で服役中のBC級戦犯46人が、28日に釈放された。

◀**リトル・トーキョーの田中絹代**（12月9日）10月21日、戦後初の芸能親善使節として羽田空港を出発、ハワイ経由でハリウッド入りした。この日、ロサンゼルスのリトル・トーキョーを訪れ歓迎を受けた。翌年1月19日、3カ月間の視察を終えて帰国する。

毎日新聞社

◀**「白亜の恋」実る**（12月10日）民主党・園田直（35）と労農党・松谷天光光（30）は、大恋愛のすえに結婚。党派を越えた恋は反響を呼び、議事堂になぞらえた「白亜の恋」は流行語にもなった。写真は結婚式後、伊香保温泉を訪れた二人。

## 昭和24年12月

1（木）●輸出だけが民間自由貿易開始（輸入は翌月）。
●初のお年玉つき年賀はがきを発売。
●第一回ガリオア留学生選抜試験実施。
●「夕刊朝日新聞」で「サザエさん」、「毎日新聞」で「デンスケ」が連載開始。
2（金）●国鉄賃金仲裁委、当局・労組に裁定案提示。
3（土）●舞鶴への引揚げ者一三〇〇人、援護局に四万円余の越年資金求めハンストに突入。
4（日）●社会党、講和問題への基本的態度決定。全面講和・中立・基地反対の平和三原則。
5（月）●全官公脱退の日教組・国鉄・全逓などが官公労結成（10日産別右派が新産別結成）。
6（火）●GHQ、本年度主食収穫高は玄米換算で戦後最高の一四四〇万トンと発表。
7（水）●国民政府、首都を台湾の台北に移す。
8（木）●阪東妻三郎主演「破れ太鼓」封切。
9（金）●東京・上野のアメ横で大火。百数十戸が全焼。
10（土）●労農党の松谷天光光と民主党の園田直が結婚。
11（日）●宝器発掘終え、法隆寺五重塔の立柱式挙行。
12（月）●イスラエル、エルサレムを首都にと宣言。
13（火）●関東配電、渇水期で昼間の一部送電中止開始。
14（水）●東証株式市場が主力株中心に大暴落。
15（木）●占領軍要員と日本人との交歓禁止を緩和。物品の授受が原則自由となる。
16（金）●毛沢東、訪ソしスターリンと会談。
●物価庁、靴を値上げ。革靴特級が一五八〇円。
17（土）●東京都人口集計。六〇二万でパリに次ぎ四位。
18（日）●熊本県魚貫炭鉱でガス爆発。一三人死亡。
19（月）●閣議、国鉄職員・公務員に五三億円の年末手当支給と決定。一般公務員一人二九二〇円。
20（火）●文部省、渡米留学生第一回合格者を発表。
●日本著作権協議会、創立総会。
21（水）●毎日球団、愛称公募で「オリオンズ」と決定。
22（木）●比叡山安楽律院で火災。正殿など六棟全焼。
23（金）●年末年始の電力特配決定。電熱器制限を解除。
24（土）●吉田首相、民主党連立派との保守合同を提唱。
25（日）●マ元帥、戦犯に特赦令。BC級四六人を釈放。
26（月）●栃木県下で今市地震。三二八四戸が全半壊。
27（火）●インドネシア連邦共和国、蘭から正式独立。
28（水）●東京・小金井町の東宮仮御所がほぼ全焼。
29（木）●東京国税局調査で婦人雑誌は赤字と新聞に。
30（金）●ソ連軍事裁判、元関東軍司令官・山田乙三ら捕虜一二人に細菌戦実施で禁固労役刑の判決。
31（土）●ジャン・ギャバン主演「霧の波止場」封切。

## 流行語
### 虚無と無縁の赤い引揚げ者

「筋金入り」。共産主義の信奉者のこと。敗戦によって価値観が激変し、その変化についていけない多くの人々は精神的に混乱していた。その中でシベリアからの復員兵だけは別だった。彼らは収容所でたっぷりと共産主義の洗礼を受け、天皇崇拝者から共産主義者に変貌して帰って来た。その精神的な強さは「筋金入り」と呼ばれて羨望のまとになると同時に、煙たがられる存在ともなった。

「駅弁大学」。この年から旧制高等学校、専門学校、大学が新制大学となり、その数は一七八に達した。急行列車の停車駅には駅弁があり、そこには大学があるという意味で評論家の大宅壮一が作った言葉。

「ギョッ」。四月からスタートしたNHKラジオの「陽気な喫茶店」で、内海突破が使った「ギョギョギョのギョ」が大流行。

「アジャパー」。伴淳三郎の言葉で、浅草の軽演劇に出演中、台詞を忘れ、思わずこう言ったところから流行した。

「ドッチ・ライン」。オンリーは一人の米兵を相手にするのが普通だが、この頃に現れた二股かける女性たちをさす言葉で、「ドッジ・ライン」をもじったもの。

◀鎌倉ペンクラブ主催の鎌倉カーニバルで、ミスコンテストとともに人気を呼んだ仮装行列の優勝賞品はぶた。 共同通信社

## 家庭
### 米軍向けからスタートした家庭用トイレットペーパー

今日のようなロール式のトイレットペーパーの誕生は、日本では大正一三年の「旭トイレット」となっている。これは外国航路の汽船に使用されたもので、一般家庭用の本格的生産は昭和二四年の「ベル」（新橋製紙）である。新橋製紙は前年に創業した小さな企業だが、半年たらずでロール式トイレットペーパーを開発。そこに米軍からの引きあいという幸運が重なった。米軍はミシン日入りを希望したが、日本にはその技術も設備もなかったという。さらに翌年、警察予備隊が発足すると二一ヵ所のキャンプ地に採用され、売り上げは飛躍的に伸びた。（毎日新聞社編『戦後にっぽん』）

## 教育
### 雨も降らないのに傘さして授業

〔名古屋発〕雨が降っているわけでもないのに、先生が教室で傘さして授業、そんな新制中学が名古屋にある。北区の志賀中学校は校舎がないため、神戸製鋼名古屋工場の製品検査場、自転車置き場、食堂などを借りて一〇二一人の生徒が勉強している。食堂は八つに仕切って使っているが、ここは天井なしの教室だから隣の授業との声が入り乱れ、先生の声が聞き取りにくい。まして雨の日ともなると、屋根にあたる雨音が加わってまったく聞こえなくなる。そこで先生は教室の中で傘をさし、声の反射板の役目をさせながらなんとか授業を続けている。（「中日新聞」六月一〇日）

## CM100年

新しい家庭薬が一つ

……増えました、避妊薬です、切迫せる人口問題から、幸福な家庭の設計上から、母性が健康と文化への目醒めから……計畫產兒が時代の聲となり、その强力で簡單な手段として避妊藥が選ばれることになつた譯です。

今日では、避妊藥を求めることは少しも恥かしいことではなくなり、現にサンプーン錠は全國の津々浦々の藥店で堂々と販賣され多數家庭で實用されて居ります。

サンプーン錠

新聞CM「避妊薬サンプーン錠」（日本衛材、現・エーザイ）

▲人口急増の歯止めとして、厚生省は4月、避妊薬の発売を許可。

▲福島鉄次「沙漠の魔王」が、「冒険王」3月号から連載開始。アラビア風の巨大な魔神の活躍が大人気。

## レジャー
### "お札"の浴衣で阿波踊り

昭和二四年の阿波踊りは新盆、旧盆と五日間行われ、我々の連もこの際、踊り衣装を新調しようということになった。まだまだ食べるのに必死になっている時だから、どこの呉服屋からも笑われたが、ちょうどその時、徳島唯一のデパート丸新で"お札"の浴衣が売り出された。新円の切り換えで不要になった古いお札を溶かして反物に織ったのである。

デパートの呉服係が色落ちしたり破れたりしたら、デパートを丸ごとあげるなどと言うものだから、思い切って買うことにした。石鹸で洗うとズルズルになったり、糊をきかすとパリパリで首まわりにスリ傷ができたが、お札の浴衣で踊るのもなかなかの気分だった。（津田幸好『阿波踊り 撮った踊った四〇年』）



## 三面記事
### 忠治一〇〇年祭に博徒集合

〔群馬発〕浪花節に講談に、その名轟く国定忠治親分が三尺高い台の上で磔になってから、今年でちょうど一〇〇年になる。そこで刑場跡の群馬県坂上村では、郷土史家などの有志が集まって、四月二三日から三日間"忠治一〇〇年祭"を行うことになった。

ところがこれをどう聞き違えたのか、全国の博打打ちの間で「大先輩の供養博打が開かれる」と伝わったところから、博打打ちが続々と現地入り。知らない同士の出入り（喧嘩）が頻発し、風雲急を告げる事態となってきた。このため吾妻地区署では三〇〇人の武装警官を配置して、万一に備えることにしたという。勝手に早合点したうえ素人にまで迷惑かけるなんて……と村ではウンザリ。（「朝日新聞」四月二四日）

◀全国大福競食会が1月20日に上野精養軒で開かれ、一人12個の早食いに挑戦。 共同通信社

## はやり歌

### 青い山脈

作詞 西条八十
作曲 服部良一

若くあかるい　歌声に
雪崩は消える　花も咲く
青い山脈　雪割桜
空のはて
今日もわれらの　夢をよぶ

古い上衣よ　さようなら
さみしい夢よ　さようなら
青い山脈　バラ色雲へ
あこがれの
旅の乙女に　鳥も啼く

雨にぬれてる　焼けあとの
名も無い花も　ふり仰ぐ
青い山脈　かがやく嶺の
なつかしさ
見れば涙が　またにじむ

父も夢見た　母も見た
旅路のはての　そのはての
青い山脈　みどりの谷へ
旅をゆく
若いわれらに　鐘が鳴る

共同通信社

▶各種調査で、いまだに高い人気を誇る同名映画の主題歌。藤山一郎（写真）と奈良光枝が歌い映画公開前からヒットした。

### 銀座カンカン娘

作詞 佐伯孝夫
作曲 服部良一

あの娘可愛や　カンカン娘
赤いブラウス
サンダルはいて
誰を待つやら　銀座の街角
時計ながめて
そわそわにやにや
これが銀座の　カンカン娘

雨に降られて　カンカン娘
傘もささずに　靴までぬいで
ままよ　銀座は
私のジャングル
虎や狼　恐くはないのよ
これが銀座の　カンカン娘

指をさされて　カンカン娘
ちょいと啖呵も
切りたくなるわ
家はなくても　お金がなくても
男なんかにゃ
だまされまいぞえ
これが銀座の　カンカン娘

福田俊二提供
◀同名映画の主題歌で主演の高峰秀子が歌い四二万枚の大ヒット。"パンパンガール"に対する"カンカン娘"だという。
JASRAC（出）許諾第9704560-701号

### 新聞売りがトップ 街で働く子ども調査

都内の繁華街では働く子ども（一五歳以下）の姿が目立ってふえた。その実態を探ってみた。

新聞売り。都が上野駅周辺で働く子どもの狩りこみをやったが網にかかったものがひと晩で一四六人、うち一二二人が新聞売りだった。彼らは一部一円五〇銭で仕入れ、毎晩の売り上げ三五〇円前後。

露店の手伝い。池袋ではこれが一〇〇人以上。相当数が民家から靴や衣類を盗んで売るワル。銀シャリつきで日に一〇〇円稼ぐ子も。

チャリンコ（少年スリ）。最近急増中。浅草や新橋のほか京成、東武などの電車内で暗躍。（「ホープ」七月一日号）

## 宗教
### 女同士の体当たり 胴上げ教誕生

戦後、全国で新興宗教が続々と誕生、昭和二四年には一月から一〇月までで九九の宗教が産声を上げた。その中でユニークだったのが"胴上げ教"。

教祖は古賀妙光という六四歳の女性で、信者は全員女性。妙光サマを囲み、ナンマイダ、ナンマイダと唱えるのだが、やがて一同に霊感がのりうつると、壮烈無比の体当たりが始まる。女同士が体をぶつけ、押し合いへし合いの肉弾戦、さらに教祖をかつぎ上げ、タビ裸足、髪ふり乱して京洛を駆けめぐる。くたびれて動けなくなったところでお開きとなる。（ジープ社編『新興宗教』）

◀八月完成のリヤエンジンバス第一号。乗客定員五九人、価格は約一二二万円。

東京都交通局提供

## 奇人
### 東京に一五年間眠らないお巡りさん

撃剣の練習中、「ヤッ」と一本横面をくらって以来、一五年間ほとんど眠らないという老巡査がいる。立川市署の河野清一巡査（五八）で、毎晩家族のおつき合い程度に三時間ばかりトロトロするだけ、一週間や一〇日くらいの徹夜はヘッチャラとあって、終夜の非常警戒や宿直などにはもってこい。食事は人並みで健康も上々だという（「朝日新聞」一月七日）

## この年の初もの
### 時間目盛りが新鮮 能率手帳お目見え

●名誉市民　仙台市でスタート。第一号は詩人の土井晩翠、金属学の本多光太郎、赤痢菌発見の志賀潔の三氏
●電気かみそり　東芝から発売。交流直流両用の画期的なもの
●パン作りの学校　大阪に登場。きれいな仕事として女性に人気

▶ラジオ「歌のおばさん」に出演した松田トシ。

世界の動き

# 天安門に「五星紅旗」ひるがえる
# 3年におよぶ国共内戦に勝利して
# 毛沢東、中華人民共和国成立を宣言！

▲1949年10月1日、建国式典が行われた天安門広場には、前夜の雨でぬかるみや水たまりができていた。しかし、広場に詰めかけた30万もの群衆にとって、この日の式典は、まさに待ち望んだ"人民の祭り"であった。 新華社 中国通信(2点とも)

**一九四九年（昭和二四）一〇月一日、三年にもおよぶ国民党との内戦に勝利した中国共産党・毛沢東主席は、人民民主主義政権の樹立を高らかに宣言した。一九二一年の結党から二八年、全世界の四分の一の人口を擁する新中国は社会主義の旗を掲げ、新たな一歩を踏み出した。**

## 天安門広場に歓声 中国の新たな出発

「中華人民共和国の中央人民政府は、今日、正式に成立した。我々四億七五〇〇万人の中国人は今まさに立ち上がったのである」

一九四九年一〇月一日午後三時、新政府の首脳を従え、グレーの中山服（人民服）を身にまとった毛沢東（五五）は秋晴れのもと、新装なった天安門の楼上でこう宣言した。

その瞬間、広場を埋めつくした三〇万の民衆からは、嵐のような拍手と歓声が沸き起こった。

広場には「毛主席万歳」「不朽の中華人民共和国万歳」と書かれた色とりどりの旗がひるがえり、軍楽隊が演奏する新国歌「義勇軍行進曲」が流れると、大合唱が天地を揺るがし、新たに制定された国旗「五星紅旗」が広場前のポールに掲揚され、五四発の礼砲が響き渡った。

その後三時間にわたり閲兵が行われ、総司令官の朱徳（六三）は、手を高々とあげながらオープンカーで人民解放軍を観閲、建国式典は新生中国の誕生を内外にアピールした。

式典に先立ち、新中国の建国会議ともいうべき人民政治協商会議が開かれたのは九月二一日のことであった。

この会議には、中国共産党をはじめ、各民主党派、人民解放軍、各人民団体、各民族や海外華僑などの代表、六六二人が参加。特別招待者の中には中国革命の父と言われる孫文の未亡人・宋慶齢（五九）をはじめ、蔣介石側にあった国民党の軍人や要人も含まれていた。

大会では中華人民共和国は労働者階級の指導する、労農同盟を基礎とする人民民主国家であるとする「共同綱領」を採択。毛沢東を人民政府委員会主席に、朱徳、劉少奇（五一）、宋慶齢ら六人を副主席に選出し、内閣にあたる政務院総理には周恩来（五一）が就任した。

また、北平を北京と改めて新中国の首都にすること、年号を西暦にすることなども採択され、建国式典を迎えることになったのである。

▲朱色に輝く天安門の楼上で、新生中国の誕生を宣言する毛沢東。

外から見たNIPPON

# 歴史家ノーマンが百姓一揆に見た日本なりの「民主主義」

佐伯　修

占領下の日本では「民主化」が声高に叫ばれたが、この年の七月、静岡県下では、占領軍の胆いりにより、一七の市町村で「民主主義祭」が開催された。

この祭典に、当時、カナダ外務省から派遣された駐日カナダ代表部首席（大使に相当）をつとめていた、日本史研究者エジャートン・ハーバート・ノーマン（一九〇九～五七）は、次のような「メッセージ、日本の民主的伝統」を寄せた。

「いかなる国民の歴史にも、矛盾し対立する伝統が同時に存在し互に覇を競っているのがつねにみとめられるものであります。日本もこの通則の例外ではありません。（中略）反民主的な勢力が支配していた時代には、ひきつづく封建体制のなかで生活の充実と自由をかちとろうと努めた生きた実例についての記述が、日本歴史のなかで比較的無視されてきたことは当然でありました。だが、いまや日本の過去を自由に研究することが可能になった以上、日本の人びとが自らその歴史のなかに暖かい寛容な伝統を再発見されることは死活的な重要性をもつものであります」（大窪愿二訳）

続けて、ノーマンは、「封建的貢租の減免あるいは人民の生活の一般的改善をかちとる闘争の個々の指導者」として、「義民」と呼ばれた近世の百姓一揆指導者である、千葉の佐倉宗五郎と、静岡の増田五郎右衛門の名をあげている。

増田五郎右衛門は、文化一三年（一八一六）、駿河飢饉の際の一揆を指導、年貢の減免をかちとるが、打ち首となった人物である。五郎右衛門の出身地、当時の志太郡細島村（現・島田市）では、七月二七日から、彼を「民主主義の先駆者」として顕彰する「民主五郎まつり」または「五郎民主祭」が大々的に行われたという。

今日から見れば、ノーマンの、封建主義イコール悪玉、百姓一揆イコール善玉という図式は、あまりにも単純な「皇国史観」の裏返しに映る。だが、ノーマンが、ほかの占領者たちと決定的に異なっていた点は、自分たちの「民主主義」を日本人に押しつけるのではなく、日本にも日本なりの「民主主義」が存在したと考え、それを日本人に自覚させようとしたことだった。

「ノルマン」として名高い宣教師、ダニエル・ノーマンの息子として長野県軽井沢に生まれた彼は、この年、名著『忘れられた思想家――安藤昌益のこと』を刊行した。

しかし、その後、彼はリベラルな思想ゆえに反共派の圧力に遭い、カイロで自害する。

▶ノーマンは、太平洋戦争の開戦を東京で迎えた。

「ハーバート・ノーマン全集」岩波書店提供

## 三年余の国共内戦で人民解放軍が勝利

「人民共和国成立とのニュースを知ったのは広州に向け進撃を始めた途中で、ガリ版刷りの号外には赤い文字が躍っていました。私の部隊は中国東北部出身の農民が中心でしたが、彼らはいよいよ牛馬以下だった生活から解放されると、喜び、涙し、国民党軍との最後の戦いに向け大いに志気も高まりました」

こう語るのは、当時人民解放軍第四野戦団に所属し、『僕は八路軍の少年兵だった』（草思社）を著した山口盈文さん（現・六八歳）だ。

一九四五年八月一五日、日本の無条件降伏は、中国にとっては国共内戦の始まりでもあった。同年一〇月一〇日、重慶で「双十協定」が結ばれ内戦は回避されるかに見えたが、四六年七月、国民党軍はアメリカの武器援助を受け、共産党支配区に攻撃をかけ全面的な内戦に突入した。

しかし国民党の優勢は長続きせず、人民解放軍は四八年九月に済南、一〇月に錦州、一一月には瀋陽を制圧、東北全土を解放した。

当初優勢だった国民党軍の兵力も、四六年七月の四三〇万人から四八年七月には三六五万人と激減、人民解放軍は逆にこの二年間で一三〇万人から二八〇万人と勢力を拡大していた。解放した地域では地主を追放して土地を分け与え、農民たちを社会主義の旗のもとに引き寄せながら、人民解放軍は一九四九年一月一四日には天津を占領、一月三一日にはついに北平に無血入城をはたした。

そして毛沢東と総司令官の朱徳は四月二一日、「全軍への進軍命令」を出し、鄧小平（四四）らの率いる第二野戦軍と陳毅（四八＝後に外相）らの率いる第三野戦軍は揚子江を強行渡河、二三日には南京を、五月二七日には中国最大の都市・上海を攻撃した。

また、林彪（四一＝後に毛沢東の後継者とされる）の率いる第四野戦軍も五月中旬に武昌、漢陽、漢口を、彭徳懐（五一＝後に国防相）らの第一野戦軍は西北に進軍、九月下旬には新疆省を制圧した。

こうして四九年末にはチベットを残し中国大陸すべてが解放され、一二月七日、国民政府は台湾に逃れたのである。

▶蒋介石は一九五〇年三月、台湾で国民党総統に復帰する。右は妻の宋美齢。

WWP



# 往きて還らぬ

▲11月3日　田中英光（36）
小説家。昭和15年「オリンポスの果実」を発表、青春小説の傑作と言われた。師であった太宰治の墓前で自殺。

▲11月20日　若槻礼次郎（83）
政治家。大正14年内相時に、普通選挙法を成立させ、治安維持法を制定。大正15年と昭和6年の2度首相となった。

▲12月14日　森田草平（68）
小説家。明治42年に平塚らいてうとの情死未遂を描いた「煤煙」で注目をあびた。ほかに『輪廻』『夏目漱石』など。

▲8月27日　上村松園（74）
日本画家。格調の高い美人画で知られ昭和23年女性として初めて文化勲章を受章。代表作に「序の舞」「焰」など。

▲9月8日　R・シュトラウス（85）
ドイツの作曲家で、オペラ指揮者としても活躍。作品に交響詩「英雄の生涯」歌劇「ばらの騎士」など。

▲10月29日　中島知久平（65）
大正6年、日本初の飛行機研究所（中島飛行機製作所）を設立。軍用機生産を推進し、戦後、A級戦犯容疑で逮捕。

▲6月3日　佐藤紅緑（74）
小説家。昭和2年に大衆小説「あゝ玉杯に花うけて」で一世を風靡した。サトウハチロー、佐藤愛子の父。

▲7月10日　6代目尾上菊五郎（63）
歌舞伎俳優。大正期に初代中村吉右衛門と人気を二分した。昭和5年日本俳優学校を設立。没後、文化勲章を受章。

▲8月15日　石原莞爾（60）
軍人。「満州国」樹立の中心人物。昭和6年関東軍を主導し、満州事変を引き起こした。日蓮の信奉者としても有名。

▶8月16日　M・ミッチェル（49）
アメリカの小説家。1936年『風と共に去りぬ』で爆発的な人気を博した。翌年ピュリッツァー賞を受賞。

WWP

▲1月25日　牧野伸顕（87）
政治家。大久保利通の次男。宮内相、内大臣など歴任。親英米派と目されて2.26事件で襲撃されたが、難を逃れた。

▲2月10日　安部磯雄（83）
明治～昭和期の社会運動家で、戦後は日本社会党の結成に尽力。また日本学生野球協会会長もつとめた。

▲5月6日　M・メーテルリンク（86）
童話劇『青い鳥』で知られる、ベルギーの劇作家、詩人。1911年ノーベル文学賞を受賞。詩集に『温室』など。

▲1月の総選挙で共産党は300万票を獲得し、飛躍的な35議席確保。団規令で10万の党員名簿を提出。

# ミニ事典
## 1949年のキーワード

**竹馬経済**
アメリカ占領時代の日本経済の特徴をさす言葉。日本の経済は片足が米国の援助、もう片足が政府補助金で成り立っており、それは竹馬に乗っているようなもので、きわめて不安定だというもの。トルーマン米大統領の特使として経済安定九原則を具体化するために来日したドッジ公使が三月七日の記者会見で発表。この竹馬経済からの脱却、経済自立化路線の提唱がドッジ・ラインである。

**「暁に祈る」事件**
モンゴル人民共和国の首都ウランバートルの捕虜収容所で自称吉村隊長がソ連側の手先となって日本人捕虜を働かせ、ノルマを達成しないものをリンチで死なせたとされる事件。三月一五日付「朝日新聞」が報道、吉村は逮捕される。昭和二三年に最高裁は上告を棄却、懲役三年の実刑判決が確定するが、被告は冤罪を訴え続けた。

**団体等規正令**
暴力主義的・反民主主義的などの団体とその運動を禁止する法律。略称、団規令。四月四日、公布・施行。政治団体に届け出と構成員の登録、機関紙の提出を義務づけ、法務庁特別審査局第四課が違反者・違反団体の摘発・処罰を行った。昭和二一年に右翼団体の一掃をねらって発令された勅令一〇一号がもとになったが、その対象は事実上共産党で、後の「レッドパージ」の伏線となった。

**年齢のとなえ方に関する法律**
正月が来るたびに年齢を加算する従来の「数え年」で年齢を表す習わしを改め、誕生日ごとに年齢を加算する「満年齢」で表すことを定めた法律。五月二四日公布、翌年一月一日施行。国際的統一の面や、一二月に生まれた乳児が翌一月には二歳になってしまうなどの数え年の不合理から、参議院議員の田中耕太郎、山本有三らの積極的提唱が生かされた。

**JIS規格**
品質の改善、生産能率の改善をはかるために定められた鉱工業製品の統一規格。六月一日に公布、七月一日に施行された工業標準化法に基づく日本工業規格。通産省に設けられた工業標準調査会が審議し、合格品にはJISマークが付された。JIS合格品は二六年四月には一〇二品目に達し、高度成長期を担う鉱工業発展の基礎を築いた。

**騒擾罪（騒乱罪）**
多数が集合して暴動または脅迫する行為。刑法第二編第八章（一〇六、一〇七条）に規定。首謀者、指揮を率先して助勢したもの、付和随行者に分けて処罰される。福島県平市の労働者らが、市警察が共産党掲示板を撤去したのに反対して六月三〇日に警察署を占拠した事件（平事件）に適用されたが、昭和三〇年八月、騒擾罪は成立せずとの判決がなされた。

▲米価審議会初代会長は農業経済学者の東畑精一。

**米価審議会**
食糧庁に所属する政府の諮問機関で、八月二日、閣議で設置が決定された。米や麦など主要食糧の価格決定に関する調査・審議を行い、関係者の意見を反映させて必要事項を建議する。委員は生産者代表五人、消費者代表五人、学識経験者など一五人。初代会長は東畑精一がつとめた。

▲連合軍上陸からナチス撤退にいたるイタリア解放の間の6つのエピソードを描く「戦火のかなた」。

**イタリアン・リアリズム**
第二次大戦の悲劇を映像化した一連のイタリア映画がとった表現法。ドキュメンタリー的手法、素人俳優の起用、ロング・ショットを用いた客観的な場面作りなどを特徴とする。イタリア語でネオレアリスモ。全世界の映画人がその新鮮な衝撃に圧倒された。日本では九月六日に封切られた、ロッセリーニ監督の「戦火のかなた」が代表作。

**安定恐慌**
インフレが収束する安定期に起こるデフレ不況。超均衡予算を柱とするドッジ・ライン強行後、インフレは克服されたが、消費の抑制と企業融資の縮小により中小企業の倒産が相次ぎ、失業者が増大した。八月一九日、日銀は金融緩和策を決定するが、融資は大企業に集中、ついに中小企業の半数近くが休・廃業状態に追いこまれる異常事態となった。

**ガリオア・エロア援助**
ガリオア援助は米陸軍省対外援助予算の占領地行政救済のための資金、エロア援助はそのうち経済復興を目的とする資金。日本には昭和二〇年九月から二六年六月まで食糧、工業用原料など現物で供与され、その総額は二〇億ドル弱になった。日本はこれを贈与と受け取ったが、米側は二八年、強く返済を迫り、結局、日本は四八年までに最終確定債務四億九〇〇〇万ドルを償還した。

**シャウプ勧告**
マッカーサーが日本の財政基盤確立のため、九月一五日に吉田茂首相に示した税制改革の要諦。この年五月に来日したコロンビア大学教授シャウプを団長とする七人の税制使節団が作成。政府はこれに基づいて昭和二五年度の税制改革を実施。所得税を軸とする直接税中心主義、地方自治確立のための住民税の増徴などを内容とした。

**ココム**
自由主義諸国から共産圏に戦略上重要な物資が輸出されることを防ぐため、アメリカが主唱、一一月三〇日に設立された協議機関。規制対象品目を定め、違反した場合は経済制裁を科した。NATO加盟の米・英・仏・伊など一五ヵ国が参加、日本は独立後の一九五二年（昭和二七）に加入。ソ連邦崩壊後、一九九四年に解体。

## CONTENTS
週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1949




●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 ㈲エービーシープレス ㈱カマル社 ㈲コミュニケーションハウス・ケースリー シト・プロ ㈲マックス ㈲マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石元泰博 乙咩雅一 海沼勝 影山光洋 影山智洋 但馬憲二 門拳 服部昌一郎 福田俊一 宮武東洋 湯川春洋 湯川スミ ウィレン・リー 朝日新聞社 岩波書店 NHKサービスセンター 共同通信社 熊本日日新聞社 CORBIS・BETTMANN 光文社 新華社 中国新聞社 中国通信 日刊スポーツ 日本電波ニュース PPS 便利堂 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 黒澤プロ 松竹 丹下設計事務所 東宝 本田技研工業 Archie・Miyatake NHK放送博物館 京都大学基礎物理学研究所 埼玉県平和資料館 逓信総合博物館 東京都交通局 日本玩具資料館 日本近代文学館 法隆寺

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1949
●湯川秀樹、ノーベル賞受賞！ 8月19日号
第1巻第26号 通巻26号
平成9年8月19日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295 （販売）03-5395-3604
定価560円 (本体5[illegible]円)



雑誌 23703-8/19 T1123703080564
Ⓛ-2001/1/1



印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社